KOBE COLLEGE

2011年度　事業報告書

学校法人　神戸女学院

学校法人　神戸女学院
理事長・院長　　森　孝一

はじめに

神戸女学院は今年、創立137年を迎えます。自由を愛し、民主的な組織運営を尊重するアメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教組織「アメリカン・ボード」によって、1875年（明治8年）に、神戸に設立されました。

高等教育機関となった神戸女学院は、1933年（昭和8年）に現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。国の「登録有形文化財」に登録されたヴォーリズ設計による校舎群と、岡田山の豊かな自然は、本学院の貴重な財産であるだけでなく、キャンパス自体が情操教育のための資産となっています。

神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」は、本学院の教育目標を表現しています。キリスト教を基本とする人格教育と情操教育を教育の中心に置き、獲得した知識や技術を、自分のために用いるだけでなく、社会、国家、世界のために貢献することのできる人材を養成すること。これが神戸女学院の教育目標です。

2011年度の大学人間科学部心理・行動科学科の入学定員増に引き続き、2012年度からの大学文学部総合文化学科の入学定員増を実現し、大学の定員管理の適正化を図りました。また、大学では学長を中心に、「ミッションステートメント」を実現するための新たな教育目標として、「中長期計画」の策定が開始されました。2012年度は、2014年4月の「共通英語教育センター」の立ち上げと、新たな教育プログラムの実現に向けて、学院と大学が一体となり準備を進めて行きます。

施設・設備面では、2012年3月に、環境・バイオサイエンス学科の教育実験施設を備えたメアリー・アンナ・ホルブルック記念館が完成いたしました。2012年度には、大学文学部1号館の改修を行う予定です。

今後も神戸女学院に対しまして、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

Ⅰ．法人の概要

1　建学の理念・教育目標 …… 1
2　設置学校・学部・学科等 …… 1
3　ミッションステートメントと３つの基本ポリシー …… 2
4　校地・校舎 …… 4
5　入学定員・収容定員・在籍者数 …… 6
6　役員・評議員に関すること …… 8
7　教職員数等に関すること …… 9
8　法人の沿革 …… 11
東日本大震災への対応について …… 13

Ⅱ．事業の概要

1　大学総括 …… 14
2　中高部総括 …… 15
3　教育・研究 …… 16
4　高大連携 …… 22
5　地域貢献 …… 24
6　その他の事業 …… 28
7　施設・設備 …… 30
8　入試に関する状況 …… 31
9　留学に関する状況 …… 34
10　卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況 …… 37
11　就職・進学状況等 …… 38

Ⅲ．財務の概要

1　２０１１年度決算の概要 …… 42
2　資金収支計算書 …… 42
3　消費収支計算書 …… 45
4　貸借対照表 …… 49
5　財務データの推移 …… 51

Ⅳ．事業計画

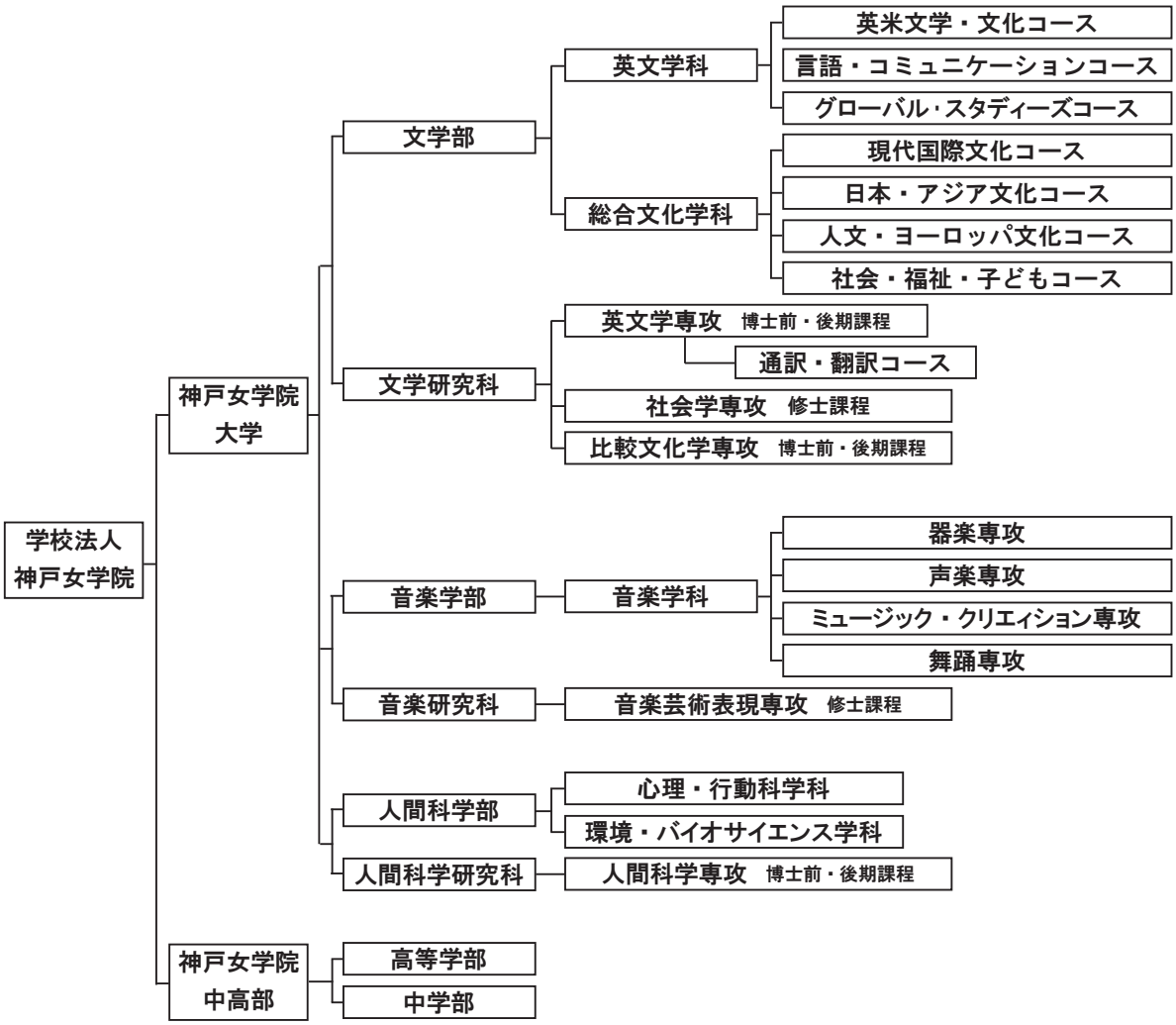
1　今後の運営方針及び２０１２年度予算編成について …… 54
2　２０１２年度事業計画 …… 54
3　２０１２年度予算書 …… 56

Ⅰ． 法人の概要

1 建学の理念・教育目標

神戸女学院は、１８７５年（明治８年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立された。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成であった。以来１３６年、高い教養と専門的知識、広い視野と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきた。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っている。

2 設置学校・学部・学科等



3　ミッションステートメントと３つの基本ポリシー

● 大学

ミッションステートメント

神戸女学院大学は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション･ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの学科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック･ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、幅広い知識と教養と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学部（英文学科及び総合文化学科）、音楽学部（音楽学科）、人間科学部（心理・行動科学科及び環境・バイオサイエンス学科）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

１）基礎学力と教養の習得

専門教育科目の理解を深め、幅広い視野と知識を持つための全学共通科目（主題コース、入門コース、探求コース、外国語、体育学及びキリスト教学）を必修科目とします。

２）専門的知識と技術の習得

専門的な知識と技術を体系的に習得するために、各学科に専門教育科目群を設置します。学科の内容に応じた表現能力、課題設定･問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、少人数のゼミ教育・実技指導を行います。

３）リベラル・アーツ＆サイエンス教育の推進

専門分野を学びつつ、同時に幅広い知識と教養と応用力を身につけるため、学部学科の壁を越えた教育を推進します。学科専門教育科目の一部を探求コース科目として他学科生に開放し、また、副専攻制度を設け、学科横断的な教育機会を提供します。

４）国際理解の推進

全学を対象に、通訳を養成する教育方法を応用して、英語運用能力を集中的に伸ばす通訳プログラムを行います。また、他者との共生を志す国際理解の精神を育むため、海外の大学・諸機関との交流、多彩な留学、研修プログラムなどを実施します。

５）キャリア形成の支援

専門的知識を活かしたキャリア形成のために教育職員免許状（英語、社会、地理歴史、公民、音楽及び理科）や精神保健福祉士の受験資格など、資格取得のための科目群を設置します。また、キャリア形成のための基本的認識を深める科目群を提供します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して教授会での審議を経たうえで、卒業が認定されます。

１）本学の学生が卒業時に備える能力

本学の教育課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や専門的技術を活かしたキャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の枠を超えた幅広い教養、表現力、ものの見方、共感性を身につけています。

２）卒業に値する学生を認定する手段

文学部では卒業論文（英文学科は英文）を担当教員が審査し、優秀な論文を公表します。

音楽学部では卒業専門実技試験にて審査が行われ、その後、全員が公開の卒業演奏･公演に臨みます。

人間科学部では卒業論文を担当教員が審査し、公開された卒業論文発表会を行います。

● 大学院

ミッションステートメント

神戸女学院大学大学院は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション･ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学大学院のミッションステートメントとアカデミック･ポリシーをよく理解し、それぞれの研究科･専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして､隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック･ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、専門的な知識と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学研究科（修士課程、博士前期・後期課程）、人間科学研究科（博士前期･後期課程）、音楽研究科（修士課程）を置き､次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

１）専門的学術理論・技術の教授と研究、２）論理的思考力の養成、３）専門知識と技術の社会的還元、４）文化・思想・科学の進歩に寄与する独創性の育成

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学大学院では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した大学院生に対して所定の委員会での審議を経たうえで、修了が認定されます。

１）本学の大学院生が修了時に備える能力

本学大学院の博士前期課程・修士課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や表現力、専門的技術を活かした教育・研究キャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の知識や技術を有効に社会に還元するためのものの見方、共感性の高い人格的教養を身につけています。

本学大学院の博士後期課程を修了した者は専門領域のより深い知識と思考力を身につけ、自立した研究者、指導者としての能力を身につけています。

２）修了に値する学生を認定する手段

文学研究科では修士論文または修士課題研究を主査および副査が審査し、研究科委員会で合否を判定します。合格した論文または課題研究は公開の場で報告します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による査読、公開の口頭試問を行います。研究科委員会の審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は３ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

人間科学研究科では修士論文を主査および副査が審査し、公開された修士論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、研究科委員会で合否を判定します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による論文審査、公開の論文公聴会と口頭試問を行います。研究科委員会での審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は３ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

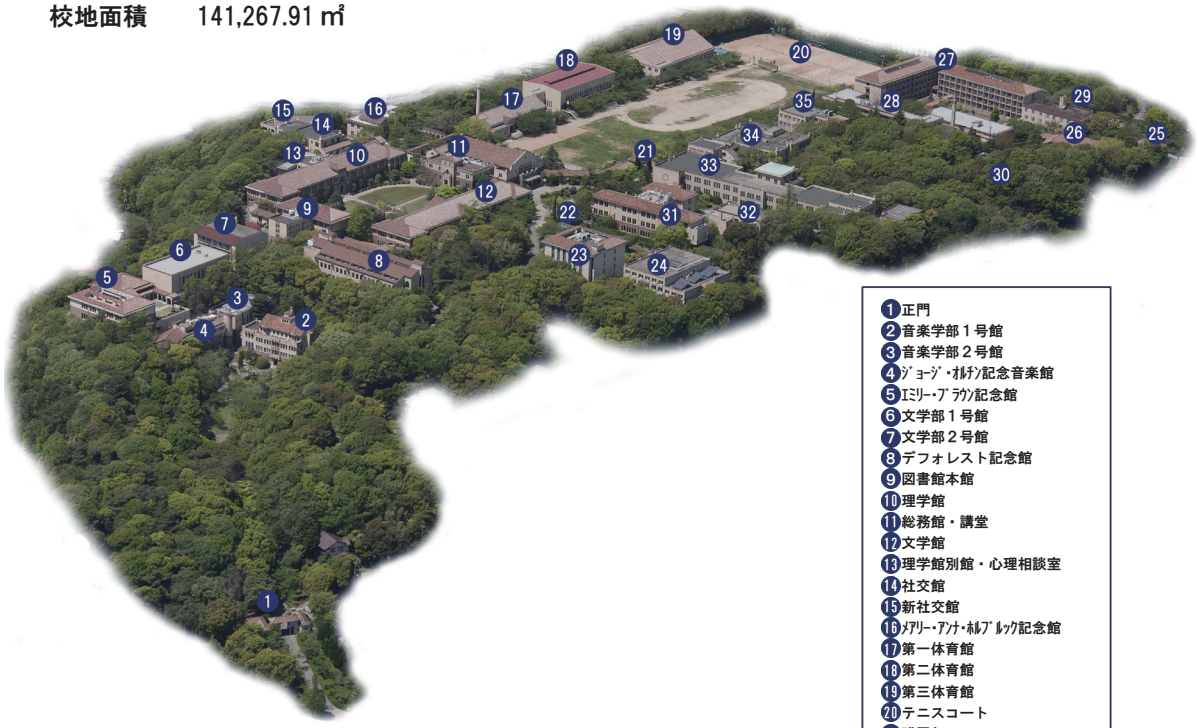
音楽研究科では修了作品または修了演奏を専門教員全員と外部から招聘した審査員により公開のもとで審査し、副論文は主査と副査が審査します。合否は研究科委員会で判定します。優秀な成績を収めた学生には学外で開催する修了披露演奏会で演奏する機会を与えます。副論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。

4　校地・校舎

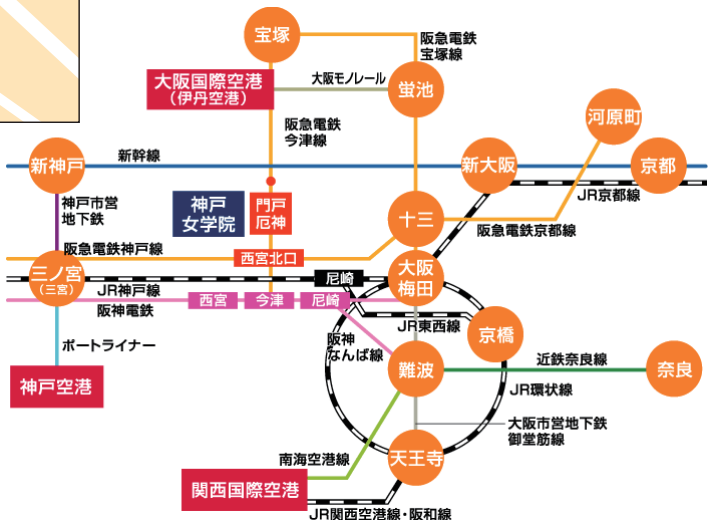
● **岡田山キャンパス**

所在地　西宮市岡田山４番１号

校地面積　141,267.91 ㎡



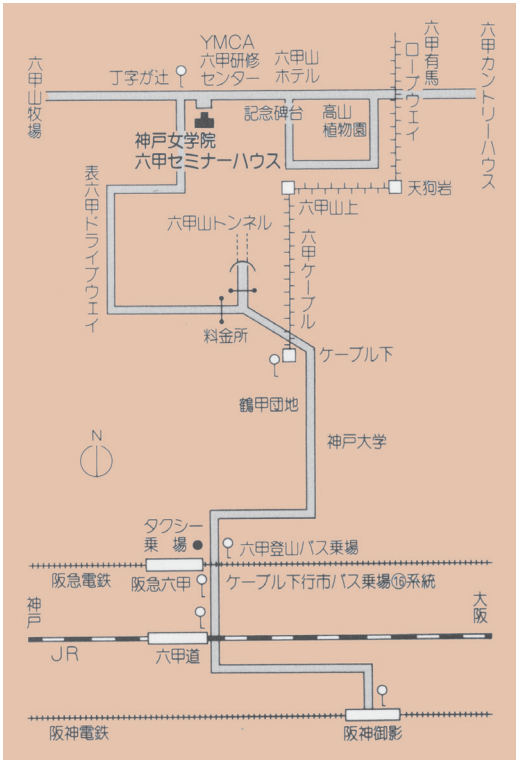
1. 正門
2. 音楽学部１号館
3. 音楽学部２号館
4. ｼﾞｮｰｼﾞ・ｵﾙﾁﾝ記念音楽館
5. ｴﾐﾘｰ・ﾌﾞﾗｳﾝ記念館
6. 文学部１号館
7. 文学部２号館
8. デフォレスト記念館
9. 図書館本館
10. 理学館
11. 総務館・講堂
12. 文学館
13. 理学館別館・心理相談室
14. 社交館
15. 新社交館
16. ﾒｱﾘｰ・ｱﾝﾅ・ﾎﾙﾌﾞﾙｯｸ記念館
17. 第一体育館
18. 第二体育館
19. 第三体育館
20. テニスコート
21. 購買部
22. シェイクスピア・ガーデン
23. 図書館新館
24. ｼﾞｭﾘｱ・ﾀﾞｯﾄﾚｰ記念館
25. エッジウッド館（研究室）
26. ケンウッド館
27. ﾒｱﾘｰ・ｱﾝﾄﾞ・ｸﾞﾚｲｽ・ｽﾄｳ学生寮
28. 岡田山ロッジ
29. 大学ｸﾛｰﾊﾞｰ館（ｸﾗﾌﾞﾊｳｽ）
30. 茶室（松風庵）
31. アンジー・クルー記念館
32. コミュニケーションセンター
33. 中高部１号館・２号館
34. タルカット記念館
35. めぐみ会館（同窓会館）



● 六甲セミナーハウス

所在地　神戸市灘区六甲山町１０４３－８

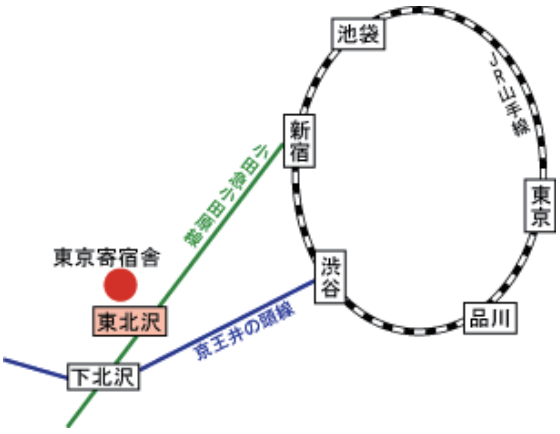
敷地面積　　1,501.65 ㎡



● 東京寄宿舎クローバーハウス

所在地　東京都渋谷区大山町８－７

敷地面積　　367.46 ㎡



5 入学定員・収容定員・在籍者数

２０１１年５月１日現在

●神戸女学院大学		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学部					
英文学科		140名	158名	560名	722名
総合文化学科		180名	217名	720名	934名
	計	320名	375名	1,280名	1,656名
音楽学部					
音楽学科		47名	50名	188名	212名
人間科学部					
心理・行動科学科※		90名	104名	330名	410名
環境・バイオサイエンス学科		80名	100名	310名	365名
	計	170名	204名	640名	775名
	大学 計	537名	629名	2,108名	2,643名

※2010年度より心理・行動科学科の入学定員を80名から90名に増員

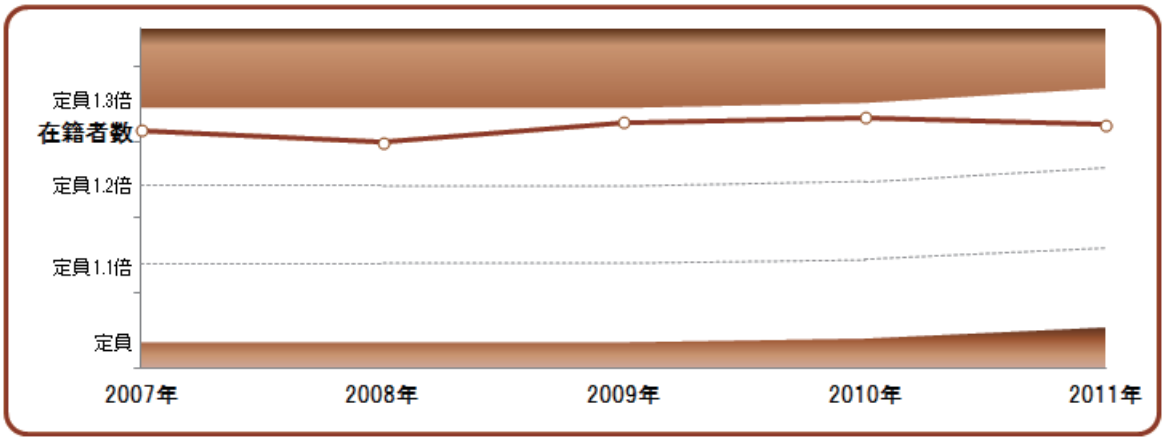
●神戸女学院大学大学院			入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学研究科						
英文学専攻	博士前期課程		13名	12名	26名	30名
	博士後期課程		2名	0名	6名	1名
社会学専攻	修士課程		5名	3名	10名	4名
比較文化学専攻	博士前期課程		5名	2名	10名	8名
	博士後期課程		2名	0名	6名	4名
		計	27名	17名	58名	47名
人間科学研究科						
人間科学専攻	博士前期課程		10名	9名	20名	18名
	博士後期課程		2名	0名	6名	1名
		計	12名	9名	26名	19名
音楽研究科						
音楽芸術表現専攻	修士課程		7名	6名	14名	14名
		大学院 計	46名	32名	98名	80名

●神戸女学院中高部		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
中学部		135名	136名	405名	423名
高等学部 全日制課程 普通科		——	——	405名	438名
	中高部 計	135名	136名	810名	861名

● 在籍者数推移

神戸女学院大学

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
文学部	1,623	1,620	1,651	1,679	1,656
音楽学部	216	214	213	211	212
人間科学部	789	764	786	772	775
計 (A)	2,628	2,598	2,650	2,662	2,643
定員 (B)	2,068	2,068	2,078	2,088	2,108
(A) ／ (B)	1.27	1.26	1.28	1.27	1.25



神戸女学院大学大学院・修士・博士前期課程

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
文学研究科	42	26	22	33	42
人間科学研究科	18	18	25	21	18
音楽研究科	13	15	14	14	14
計	73	59	61	68	74

神戸女学院大学大学院　博士後期課程

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
文学研究科	12	15	15	10	5
人間科学研究科	3	2	1	1	1
計	15	17	16	11	6

神戸女学院中高部

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
中学部	444	446	436	436	423
高等学部	473	433	440	441	438
計	917	879	876	877	861

6 役員・評議員に関すること

２０１１年５月１日現在

理事		定員	現員	
第１号理事	院長（理事長）	１名	１名	森孝一
第２号理事	学長	１名	１名	飯謙
第３号理事	中高部長	１名	１名	舩橋昭
第４号理事	めぐみ会※1推薦会員で理事会選任	３名	３名	橋本惠里子　伊藤良子　上紀子
第５号理事	評議員会選任	２名	２名	南徹弘　西澤他喜衛
第６号理事	コーポレーション※2推薦で理事会選任	３名	３名	原田惠子　伊藤栄子　斉藤言子
第７号理事	理事会選任学識経験者	４名	４名	家近正直　柴谷享一郎　安場耕一郎　吉富正夫
総数		１５名	１５名	
監　事		２名	２名	秋山ひさ　澤田磐雄

評議員		定員	現員	
第１号評議員	理事会選任学識経験者	１１名	１１名	磯部卓三　伊藤良子　髙坂敬三　松本眞千子 南徹弘　西澤他喜衛　佐藤容子　富田順治 辻毅一郎　植木龍夫　吉富正夫
第２号評議員	めぐみ会推薦会員で評議員会選任	８名	８名	石割初子　松本美耶子　中川玲子　中野桂子 野木芳子　田宮孝子　転法輪真理　富川浩子
第３号評議員	理事会推薦教職員で評議員会選任	８名	８名	古庄高　斉藤言子　吉田純子　林真理子 北田京子　荻欣也　井出敦子　住野秀樹
第４号評議員	コーポレーション推薦で評議員会選任	４名	４名	馬場美奈子　Ann B. CARY　伊吹寛子　杉浦剛
総数		３１名	３１名	

※１めぐみ会・・・
正式名称「公益社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。（在校生は準会員）

※２コーポレーション・・・
正式名称「Ｋｏｂｅ Ｃｏｌｌｅｇｅ Ｃｏｒｐｏｒａｔｉｏｎ」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、１９２０年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

7 教職員数等に関すること

● 在籍教職員数

２０１１年５月１日現在

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教授	客員研究員	特別客員	計
英文学科	6	7	4	0	1	1	0	1	0	0	20
総合文化学科	15	7	3	0	0	0	0	0	1	0	26
音楽学科	10	1	1	0	1	0	0	2	0	0	15
心理・行動科学科	6	4	1	0	1	0	0	0	0	0	12
環境・ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	8	2	0	0	0	0	1	0	0	0	11
一般（体育）	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	47	21	9	0	3	1	1	3	1	0	86

	教諭
高等学部	19
中学部	20
計	39

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員（学生寮）	計
法　人	18	1	0	19
大　学	45	0	2	47
中高部	6	0	0	6
計	69	1	2	72

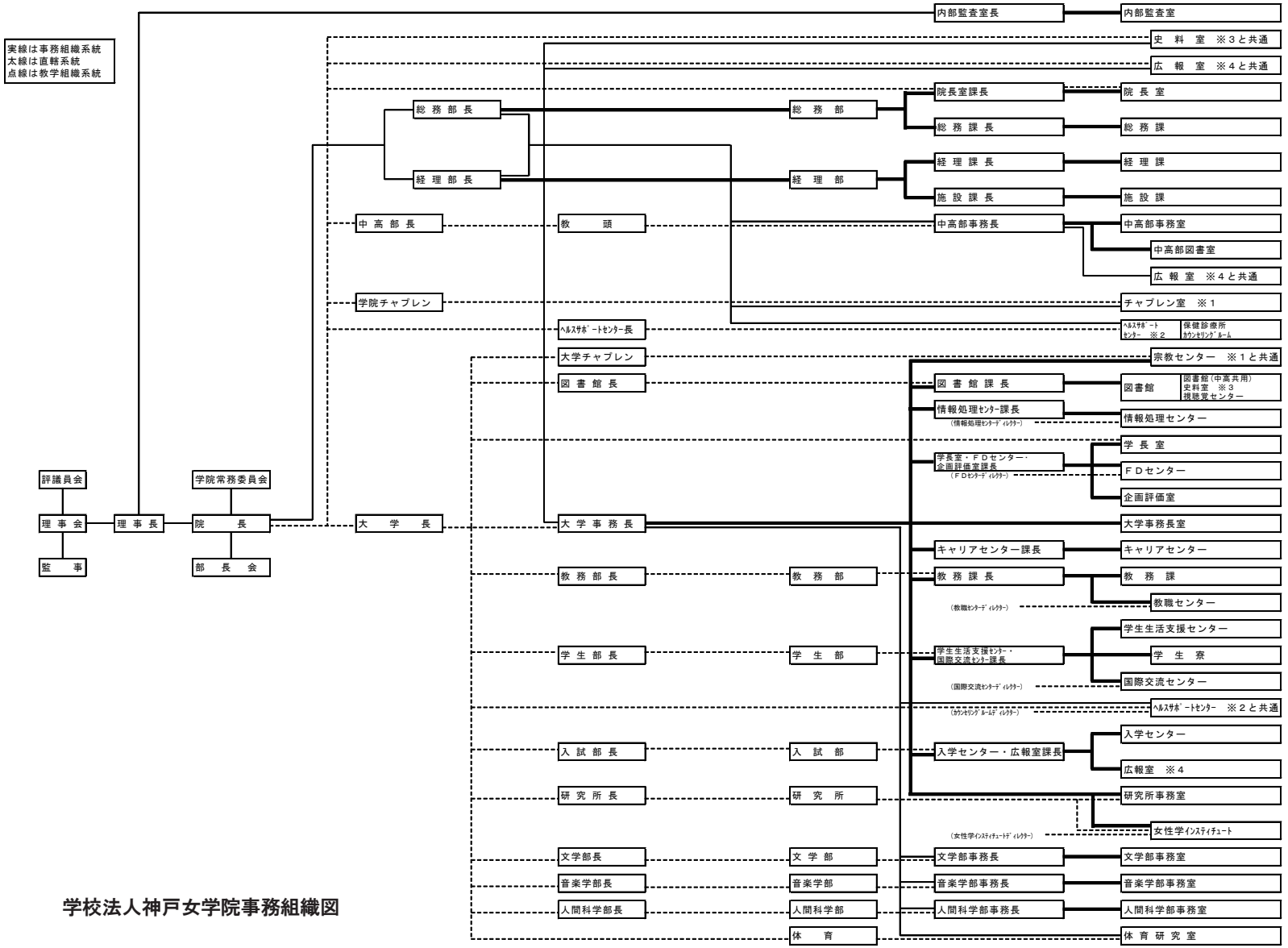
	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週４日	17	11	28
週３日	1	3	4
週２日	0	4	4
計	18	18	36

● 在籍教職員数推移

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
大学	専任教員	87	85	84	87	86
	非常勤講師	306	332	342	333	340
	大学計	393	417	426	420	426
中高	専任教員	41	41	42	41	39
	非常勤講師	23	17	19	23	24
	中高計	64	58	61	64	63
計		457	475	487	484	489

学院	専任職員※	71	73	71	70	72
	嘱託職員	33	34	35	36	36
計		104	107	106	106	108

※契約職員含む



学校法人神戸女学院事務組織図

8 法人の沿革

1873 年（明治 6 年）

米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3 月に来日し、10 月、神戸花隈村に私塾を開く。

1875 年（明治 8 年）創立

山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名は Girls' School。初代校長はタルカット女史、舎監はダッドレー女史で、当初の学生数は 26 名（寄宿生 3 名、通学生 23 名）。

1879 年（明治 12 年）

校名を「英和女学校」と定め、5 年制の課程を定めカリキュラムを整備。

1885 年（明治 18 年）

高等科（1 年）、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、霊魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。

1891 年（明治 24 年）

本格的な女子高等教育を開始、3 年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。

1894 年（明治 27 年）

「神戸女学院（Kobe College）」と改称。名実ともに College（女子高等教育機関）となる。

1906 年（明治 39 年）

教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。

1909 年（明治 42 年）

専門学校令により「専門部（4 年制）」（当時の女子高等教育の最高水準）設置認可。

1919 年（大正 8 年）

専門部を「大学部」と改める。予科 1 年・本科 3 年を置く。

1933 年（昭和 8 年）

西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部 1 号館、講堂・チャペルを含む総務館などは当初の建物。

1948 年（昭和 23 年）

4 年制の新制大学が発足。学制改革により 4 年制の新制女子大学―「神戸女学院大学」が認可され、文学部（英文学科、社会学科、家政学科）を設置。

1949 年（昭和 24 年）

新制の音楽学科を設置。1952 年には音楽学部の認可を受ける。

1965 年（昭和 40 年）

大学院文学研究科（修士課程）英文学、社会学専攻を設置。

1967 年（昭和 42 年）

家政学科が独立して家政学部となる。

1975 年（昭和 50 年）

「創立 100 周年」を迎える。

1976 年（昭和 51 年）

文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。

1980 年（昭和 55 年）

大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科（修士課程）に日本文化学専攻を設置。

1989 年（平成元年）

大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。

1990 年（平成 2 年）

音楽専攻科を設置。

1993 年（平成 5 年）

家政学部を改め、人間科学部人間科学科が設けられる。（家政学部は募集停止）

1997 年（平成 9 年）

大学院人間科学研究科（修士課程）人間科学専攻を設置。

1999 年（平成 11 年）

大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。

2000 年（平成 12 年）

創立 125 周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程）音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文化学専攻を比較文化学専攻に改称。

2001 年（平成 13 年）

東京女子大学と相互に学生交流を行う特別聴講制度を開始。

2002 年（平成 14 年）

大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。

2004 年（平成 16 年）

大学院文学研究科（博士前期課程）英文学専攻に通訳コースを設置。

2005 年（平成 17 年）

人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置。（人間科学科は募集停止）

2006 年（平成 18 年）

音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。

2007 年（平成 19 年）

音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエィション専攻に改組。

東日本大震災への対応について

[学生支援と奨学金]

震災直後から、寮の学生および住所から割り出した被災地域出身の学生の安否確認を開始し、家や父親の会社を津波により流出した１名の学生を含み、学生全員（２２名）の安全を確認しました。

これらの学生のうち１０名に家庭会より、その被害に応じてお見舞い金１０万円を１名、３万円を９名に支援金としてお渡ししました。

また、これらの被災学生のうち、特にその被害の程度が大きかった学生２名には、「神戸女学院大学授業料減免規程」による授業料減免を行いました。１名は前後期分、１名は新入生であり既に前期学費納入済みであったため後期分について適用しました。教育充実費については「２０１１年度　神戸女学院　愛校バザー」収益配分により、１名は前後期分、１名は後期分を支給しました。この２名のうち、特に被災の程度の大きかった学生１名には寮費を 30 万円に減額のうえ、生活費として月額５万円を１２カ月分支給しました。

この他、震災直後よりキリスト教学校教育同盟加盟校で被災地域にある３大学（東北学院大学、宮城学院女子大学、尚絅学院大学）に在学する女子学生に対して、「特別聴講生」（図書館の利用および科目の履修を無料で提供する）と「特別派遣学生」（本学施設利用、科目の履修、キャンパス内の宿舎を無料提供し、生活支援奨学金月額５万円の援助）の半期あるいは１年間の受け入れを申し出ました。遠隔地であることも原因したと思われますが、この制度の利用を希望した学生はありませんでした。

[授業料免除]

東日本大震災により災害救助法の適用を受けた地域で被災した一般入試前期Ａ日程またはＢ日程の受験生に対し、４年間の授業料免除制度を定めましたが、該当者はありませんでした。

[入学検定料免除]

２０１２年度入試の実施にあたり、東日本大震災被災地域出身の受験生を対象に、一般入試における入学検定料を免除する制度を設けました。これは、東日本大震災により災害救助法の適用を受けた地域に居住しているか、震災当時居住していた受験生、または適用区域内の学校に通学しているか、震災時通学していた受験生を対象にしています。２０１２年度入試においては、一般入試前期Ａ日程・Ｃ日程・Ｄ日程に複数出願した１人の受験生から申請を受け、入学検定料を免除しました。

[義援金]

本学院では東日本大震災で被災した方への支援、関係諸団体への寄附、同震災ボランティア活動への支援をするため、２０１１年３月１４日より１２月２１日まで、４次にわたり義援金を募りました。合計 10,602,099 円が献げられました。御協力くださいました皆様に心から感謝申し上げます。今後はバザーとクリスマスの際に募り、被災者支援のために用いる予定です。

寄付先：日本赤十字社、大学被災学生支援、学校法人宮城学院、学校法人尚絅学院、学校法人東北学院、日本基督教団仙台北教会、日本基督教団東北教区被災者支援センター（エマオ）、学生東北ボランティア活動支援 他

Ⅱ． 事業の概要

1 大学総括

２０１１年度は、４月４日の入学式に学部６２９名、大学院博士前期（および修士）課程３２名の新入生を迎えて始まり、２０１２年３月１６日、６１３名に学士号、２７名に修士号、２名に博士号を授与する卒業式をもって閉じられました。堅実な教育の営みがゆるされた一年であったと感謝いたしております。振り返りますと、未来への地盤固めの年であったとの印象をもちます。

まず中長期計画について述べます。大学では２０１０年に「ミッションステートメント」、「アドミッション・ポリシー」、「アカデミック・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」を明文化し、大学教育の入口から出口に至る基本方針を明らかにしました（P．２参照）。２０１１年度はそれを具体化するべく協議を重ねました。本誌における詳細な報告は来年度に譲らねばなりませんが、これまで神戸女学院において培われてきた英語教育、リベラルアーツ＆サイエンス教育、教学支援体制をさらに深めるかたちで展開される見通しです。大学ではそれを主題とする教授会研修会を４月２９日と１０月１２日に行い、特に秋には英語教育について問題の核心に踏み込んだ議論がなされました。その結果、年度末の２０１２年３月教授会で（仮称）共通英語教育センター設立を決議し、この分野の改革に向けて歩み出しました。センターは２０１３年４月の設立に向け、準備を続けています。リベラルアーツ教育を念頭に置いた新プログラム、その学修を支援する体制整備についても討議を始めています。

次に国際交流分野への積極的なアプローチについて述べます。大学では「国際交流短期受入れ補助」制度を制定し、学生が学内で海外の提携大学と学的な研鑽を積む機会を援助することとしました。従来から海外の提携大学の学生が本学に長期間滞在して行う研修プログラムはありましたが、これは本学教員による講義聴講が中心です。対して、この制度は学生自らが研究発表とそれを巡る討議を行い、学修成果を深める試みです。２０１１年度は６月に韓国の梨花女子大学学生５名と本学人間科学部環境・バイオサイエンス学科の学生、１０～１１月にはインドのセント・ジョセフ大学学生３名と本学文学部総合文化学科学生とが共同学習プログラムを実施しました。長いスパンで内容を錬磨し、各大学との関係が深化するよう願われます。また昨年度にスタートした大学院人間科学研究科のプロジェクト「地域からＥＳＤを推進する女性環境リーダー」ですが、９月２０日の修了式で５カ国８名の第１期生を送り出しました。第２期も６カ国６名の留学生を迎え、予定した通りの日程をこなしています。

教育プログラムの点では、昨年度報告した人間科学部環境・バイオサイエンス学科の中・高理科教職課程に続き、２０１２年２月に文学部総合文化学科で中・高国語科の教職課程が認可されました。２０１２年度入学生から適用されます。総合文化学科にはこれまでの中学の社会、高校の地歴・公民と合わせ、複数の教職課程が設置されたことになります（双方同時履修は不可）。これによっていっそうカリキュラムが拡げられ、さらに意欲的な学生が入学してこられるよう期待されます。

これら学習環境の充実と並び、外に向けて本学を提示する試みも積極的に行いました。新たに関西圏に居住した方々へのアピールをと考え、２０１１年度は阪急梅田やＪＲ天王寺等、主要駅構内に本学の看板を出しています。幸い好評を得、２０１２年度も継続することとしました。

最後となりましたが、文学部総合文化学科定員の２０名増が認可されました。本学科を目指す受験生により適切に門戸を開きえたこと、そして２００８年度に受けた大学基準協会による大学評価と認証評価でご指摘いただいた定員管理の問題について改善できたことをご報告いたします。

2　中高部総括

中高部の2011年度は、4月1日のJ1（中学部1年）オリエンテーション、デイキャンプによって始まり、7日の中学部入学式で 136 名を、8日のS1（高等学部1年）入学式で 149 名を迎え、学校生活が始まりました。今年度も、中高部の本来目標とする教育活動を日々重ねることに、全教職員と全校生とが取り組みました。

一昨年度は、世界的に猛威を振るったインフルエンザに苦慮し、昨年度は2学期末に起きた1号館の小火事故が幸いに大事に至らなかったものの、日ごろの危機・安全対策の必要さを教えられました。今年度は、何と言っても昨年度末の3月11日に起きた東日本大震災と原発事故が、1年間、日本だけに及ばず世界中の脅威として受け止められ、地理的に離れている中高部にも大きく影響を受けました。

3月18日にJS自治会の呼びかけで、東北に義援金を募り始め、それから毎学期初めに実施し続け、今まで計4回、日本赤十字社を通して 1,994,772 円送金しました。まず生徒達が動きだしました。

次に、放射能の影響を考え、Sで長年続けて来た東北地方への修学旅行を、北海道行きに変更しました。来年度は九州地方に行きます。（ 今後4年間は九州地方ですが、また東北地方に復活するかもしれません ）日本は世界から見れば、本当に小さな島国と思われ、日本全国が汚染されている様に見られています。受け入れ留学生も来なくなりました。4月に着任したばかりの外国人英語教員も、神戸産の野菜が外国で汚染されたとの報道（ 誤報でしたが ）をその家族が聞き、熱烈な国際電話で説得されて、数日で帰国しました。その代わり、外国で震災のニュースを見た英語教員が、日本の為に何か役に立ちたいと、代役を引き受けに来日し授業を担当しました。また、夏期休暇で帰国した外国人英語教員も母国で説得され辞任し、その代わりに3月に離任した教員に、再度お願いしました。

この東北地方大震災は生徒達の礼拝態度にも影響を与えたようです。2008年1年21日にJ3生が多くの人の祈りが届かず天に召された事は、中高部の生徒に大きな悲しみと衝撃を与え「いのち」について考えざるを得ず、礼拝の態度が静かに変化していきました。そして、今回の東日本大震災で、人との繋がりの大切さ、人間のいのちについて更に関心が増し、毎日の礼拝に静かにかつ熱心な祈りが肌で感じられます。

女子サッカー・なでしこジャパンの世界選手権優勝も、本校に少し影響を与えました。なでしこジャパン優勝のニュースが日本中を湧かせてから、「日本女子サッカーの先駆的な役割を担ったのが、1966年秋に創部された神戸女学院中学部サッカー部だった。」と、急に取材申し込みが舞い込みました。2011年7月中旬からフジテレビ「Mr. サンデー」、テレビ朝日「モーニングバード」で放映され、また朝日新聞、受験雑誌「進学レーダー」でも記事が掲載されました。

今年度のJ1から、1年だけ4クラス、J2からS3までは3クラスと編成を変えました。以前より教育委員会などから1クラス30人ほどの少人数化への呼びかけがあり、本校も「よりきめ細やかな教育を」と考えて、7年前からJだけ3年間4クラスにして来ましたが、教師の授業担当数が増えただけで、クラスの生徒たちには疑問でした。いやむしろ、クラス単位の活発さが減少したのではないかと思われました。全国的にも少人数化で効果が見られ良くなった学校は半数ほどとの報告も聞いています。授業が成立しにくかった学校では、効果があったようです。生徒達には教師の指導が勿論必要ですが、生徒同士でなされる切磋琢磨による成長が大きな意味があります。ですから、35人より45人の方が10の個性が増し、より切磋琢磨出来ます。J1では、中高部と小学校とは随分と違いますから少人数にして、J2からは45人へと変更しました。

2011年度の理事会において、老朽化した中高部2号館を2013年度着工で3階建に建て替えることが決定されました。

3 教育・研究

「国語」教職課程開設

２０１２年２月１５日に文部科学省より認可を受け、４月から文学部総合文化学科に中学校・高等学校の「国語」教職課程を開設します。これにより、２０１２年度本学科の入学生からは「社会」（中学校「社会」、高等学校「地理歴史」・「公民」）または「国語」（中学校・高等学校）のいずれかの教職課程を選んで履修し、免許を取得することが可能になりました。

現代国際文化、日本・アジア文化、人文・ヨーロッパ文化、社会・福祉・子どもの４コースを展開している本学科では、本学の教学理念を踏まえ、人文社会諸科学の幅広い分野を対象とする自主的な学びを展開するとともに、資格取得を含む系統的学びも両立させています。本学科の前身、社会学科の時代から設けられてきた「社会」の教職課程はその一つであり、広い視野をもち自主的に考え行動できる人材を育成してきました。「国語」の教職課程においても、幅広い学びの一環として教科「国語」に直結する専門的な科目を設置できるという本学科の利点を生かし、中国や韓国等のアジア諸国と日本との関係に目を向け、多様な文化と社会に関する国際理解・異文化理解の力を育むとともに、日本語・日本文学という「国語」の能力と日本文化に関する歴史的素養を高める教育を目指しています。また、国語の専門科目に加えて社会科学系の科目を学び、現代社会に関する知見を得ることは、現在の「国語教育」に求められている、社会的実践的な言語活動についての理解を深めることに繋がっていくと考えられます。さらに、「国語」の教職課程は、全学部生の履修が可能な課程として設置されている日本語教員養成課程（副専攻）との同時履修が可能です。二つの課程を重ねて履修することによる、相乗的な教育効果も期待されるところです。

本学では全学一元化した教職センターが中核となって「英語」・「理科」・「社会」・「音楽」の教職課程の教育・指導を重ねてきました。今後は、その実践経験を「国語」にも応用し、総合的な洞察力と判断力を身につけた「国語」の教員を社会に送り出していきたいと考えています。

文学部講演会「夢をあきらめさせろ？ー幸福の国の女学院生たち」開催報告

２０１２年２月２日、マスコミでも活躍中の新進気鋭の社会学者、古市憲寿氏（東京大学大学院）をお招きして、学生・教員・客席対話型による文学部講演会を実施しました。

この講演会は、２０１１年５月の文学部教授会において、英文・総合文化両学科の共催による「文学部講演会」開催の提案が承認されたことから始まり、古庄文学部長と両学科の顧問教員３名の指導のもと、両学科から６名ずつ選出された学生委員１２名が実施／運営の主体となりました。学生主体によるこのような取り組みは前例がなく、当初は手探り状態が続きましたが、数回にわたる委員会での議論の結果、「神戸女学院生が『強張ることなく』日頃の思いを吐き出すことができ、講演会の後も思考の材料になるもの」を軸とすることで一致、それゆえに会のスタイルは傾聴型ではなく、対話型を採用しました。講師として「絶望の国の幸福な若者たち」など若者論についての著書があり、有名な若手論客である古市氏の招聘が決定、幸いにも氏の快諾をいただいて本格的な準備に取り掛かったのは２０１１年１０月後半でしたが、学生委員たちは、広報活動、学生・教職員への事前アンケートの実施・回収・分析、そして古市氏との事前協議など、意欲的に準備を行いました。ツイッターを活用しての広報活動など新しい取り組みも見られました。

当日は文学部１号館２１教室に、学内外から約１３０名の聴衆を集めて、第一部・古市氏による基調講演、第二部・古市氏と本学教員／学生とのパネルディスカッションを行いました。ある学生委員は「納得し、気づき、違和感を抱き…どんな形であれ、

『身体』に響く場となったことを知り、心底嬉しく思いました」と述懐しています。たかがたった１回の講演会、限られた時間の中で全てを語り尽くせたわけではありません。しかし、主体的に参加した学生たちにとっては自分自身、神戸女学院、そして社会について考えるための貴重な場となりました。リベラル・アーツ教育を地で行くような、こうした学びの機会をこれからも引き続き学生たちに提供したいと考えています。

２０１１年度　音楽学部定期演奏会

秋深まりゆくなか、２０１１年度音楽学部定期演奏会が、１１月２９日（土）１８時４５分より神戸国際会館こくさいホールにて開催されました。

プログラム第１曲目は３、４年生の合唱、中村健教授指揮によるドヴォルザーク作曲「自然のうた」（二宮尊道訳詞）が指揮者により無伴奏混声合唱曲から女声合唱曲に編曲され、演奏されました。訳詞の二宮尊道氏は二宮尊徳（金次郎）の子孫で本学の英文学科教授でもあられたことは興味深く、親しみ

にも繋がったことでしょう。

２曲目はオーケストラによるドビュッシー作曲「牧神の午後への前奏曲」。フルートソロのやわらかな響きと共に幻想的な世界を醸し出しました。

前半の最後は１、２年生の合唱とオーケストラによるブラームスの哀悼歌「ネニエ」が山本哲也非常勤講師の指揮により演奏されました。ドヴォルザーク同様、混声合唱曲を中村 健教授により女声合唱曲に編曲され、２００２年本学定期演奏会で初演された曲の再演となりました。きめ細かな指導により、若い学生たちの意気込みが伝わってくる演奏でした。

後半はプロコフィエフ作曲の「ピアノ協奏曲第１番」で始まりました。ソリストはオーディションによって選ばれた大学院２年の須山由梨さん、指揮は辻井 淳准教授です。この曲はプロコフィエフが作曲した５曲の「ピアノ協奏曲」の中でも高度な技巧を要する難曲です。須山さんは若いエネルギーを持ってオーケストラと一体となった、躍動感ある演奏を繰り広げました。いよいよプログラムの最後はストラヴィンスキー作曲「火の鳥」組曲です。この曲はバレエのために書かれたものですが、いくつかある管弦楽版のうち、６つの組曲からなる１９１９年版が選ばれ、中村 健教授の指揮により演奏されました。さまざまな楽器でソロパートが活かされた組曲は、学生たちが日頃の練習とそれぞれの力量を発揮し得る最良の機会でもありました。

学生たちが今ある最大の力を出し合った演奏会でした。

第６回音楽学部舞踊専攻公演

去る３月８日、９日に、音楽学部舞踊専攻第６回定期公演が兵庫県立芸術文化センター中ホールにて行われました。２日間にわたり、多くの方々にご来場頂きました。プログラムは、第１部に２作品、第２部に２作品の計４作品を発表しました。

最初の作品は、客員准教授であるグラハム・マッケルヴィー先生振付による、１・２年生による Class at 13:20 で、常日頃学生達がマッケルヴィー先生のもとで学んでいる、マーサグラハムテクニックをベースとしたクラスのデモンストレーションで、舞踊専攻の伴奏要員、藤井さんと田中さんによるオリジナル音楽で、モダンダンスの持つ技法の美しさを再確認することができました。

２作品目は、３・４年生による Album で、これは是非卒業していく４年生と一緒に舞台に立ちたいという３年生の願いを、島﨑教授が作品にしました。女性が自分の人生のアルバムをめくりながら、いろんな事を考え、不安を抱えながらも未来へ向かっていく様子を表現しました。

３作品目は、開設以来毎回１・２年生によって踊られてきた Here We Are ！で、今まで毎回公演を見に来て下さっている方々から、「同じ作品が踊るダンサーによって変わっていく面白さがあって、毎回楽しみにしています。」というお言葉を頂き、改め

てお客様の視点の素晴らしさに気付きました。

最後の作品は、４年生による Bardo です。この作品は、元々島﨑教授がアメリカのシカゴにある舞踊団に振付した作品で、オランダの舞踊団のレパートリーにもなっているものです。開設以来、学生のレベルを上げ、島﨑教授がプロの舞踊団に提供した作品を、学生に踊らせるのが一つの目標でした。ゲストの男性ダンサー達と１ヶ月近いリハーサルをする中で、改めて彼女達の潜在能力の高さに驚かされると同時に、教員の側が学生達の未来の姿に対して夢を持つ事が、いかに大切であるかという事を、身をもって体験する事ができました。

昭和音楽大学・東京音楽大学・本学による３大学連携事業

３大学共通科目「ミュージック・コミュニケーション講座」（各大学から２回ずつの中継と、東京音楽大学における３日間の夏期合同セミナー）を実施しました。インターネット・ビデオ会議システムの特徴を生かし、今年度は海外をつないでの４点（オーストラリア国立大学と日本の３大学）中継も実現しました。外国人講師による講座（８月３１日～９月２日、１０月５日）では、本学通訳コースのＯＪＴとして通訳のサポートを頂きました。また公共ホールとの連携企画コンサートを８月～１２月に計１１箇所で実施しました。（本学音楽学部は１２月４日に福岡県八女市文化会館で実施）各大学が連携相手先の公共ホールと共催し、企画・制作には学生も参加しました。その経過を３大学で共有しながら進めました。定期的に開催する３大学連携研究会をベースとして、日本の音楽系大学におけるアウトリーチ実施の実態調査をアンケート方式によって行い、アウトリーチ事業と大学教育との関連性、今後の音大教育が目指すべき方向性についても明らかにしました。１月にはニューヨークでの音楽大学キャリア担当者会議、アウトリーチ担当者会議に参加して３大学連携事業について中間報告を行うとともに、他大学との情報交換を行いました。２月にはロンドンのギルドホール音楽院の取り組みとニューヨーク・フィルのティーチング・アーティストとのコラボレーションを視察するとともに、３月には国際会議（The Reflective Conservatoire）への参加を通して新しい考え方や方法論についての情報を得ました。連携事業については、連携運営委員会を定期的に開催し、３大学の意思疎通を深めながら運営してきました。９月と２月には、学外評価委員５名による学外評価委員会を開催し、さまざまな立場から連携事業に対する意見と助言を頂戴しました。またホームページの更新により、連携事業について広報するとともに、「学生の広場」を設けて３大学の学生の交流の活性化を図りました。さらに英語版ホームページの追加作成も行いました。３大学連携事業の成果報告と問題提起の場として、２月２６日には昭和音楽大学においてシンポジウムを開催し、１０５名の参加者を得て音楽関係者やワークショップ、コミュニケーション教育関係者と意見交換を行いました。

今年度の活動内容については活動報告書を作成して、３年間の事業成果を広報し、今後の展望を示しました。活動報告書は全国の音楽大学、音楽関係団体、音楽高校等７４０ヶ所に送付しました。

地域からＥＳＤを推進する女性環境リーダー育成プログラム：第１期生の修了

人間科学研究科では、科学技術振興調整費の助成のもとで「地域からＥＳＤを推進する女性環境リーダー育成プログラム」を立ち上げ、２０１０年１０

月に第１期生として東南アジア５か国から８名の留学生を受入れてスタートさせました。このプログラムは、持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）を草の根レベルで展開するための女性指導者を育成することを目標に、１）アジア諸国の大学教員が現地からオンラインで講義をする遠隔授業「アジアの環境とその保全」、２）環境先進国としての日本の現状や課題を、本学教員をはじめとする日本人教員が英語で講義する「日本の環境とその保全」、３）ＮＰＯ、自治体、企業の協力のもとで地域に密着したＥＳＤ活動の実際を学ぶ「インターンシップ」、４）先進的なＥＳＤの取組みを行なっている地域を訪れて環境と人の営みを学ぶ「フィールドワーク」の４つの柱からなるカリキュラムにそってアジアと日本の学生がともに学ぶものです。２０１１年度前期は、第１期生のプログラムの後半にあたっており、講義科目である「アジアの環境とその保全Ⅱ」、「日本の環境とその保全Ⅱ」、夏期休暇中に実施する「インターンシップⅢ」を行いました。８名の留学生は、１年間のプログラムを終えてコースの全単位を修得し、９月２０日にソール・チャペルでの修了式をむかえることができました。この１年間は、試行錯誤が続きましたが、多くの方々の協力を得て無事に乗り切ることができました。

引き続き、１０月からはサムラトランギ大学（インドネシア）、徳成女子大学（韓国）、華南師範大学（中国）、ミリアム大学（フィリピン）、プトラ大学（マレーシア）、ダナン工科大学（ベトナム）から１名ずつ計６名の留学生を受入れて、第２期生に対するプログラムが始まりました。前年の経験の積み重ねや反省にもとづいて、受入れ手続きやカリキュラムはスムースに進行するようになっています。１月にはフィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学とのMOU締結に訪れた本学教員が本国に戻って活躍している第１期修了生に面会しました。また、半期遅れながら日本人学生からも、プログラムの修了者を出すことができました。

ネットワークシステムおよび情報教育システムの更新

２０１１年度夏期休業期間を利用して、認証システムを含むネットワーク関連設備とＣＳ・ＣＡＬＬ・ＭＭ教室等の情報教育設備を同時に更新しました。更新には多額の経費を要する為、従来は外部資金の経費補助を受けて来ましたが、今回は情報関連設備への補助制度が無くなり、全額を本学の特別予算で賄う必要が生じました。そのため、什器やＡＶ機器等を可能な限り継続利用する等の経費節約を念頭に置いて、前年度から周到に計画し、業者を厳選した上で、情報処理センターの総力を挙げて実施しました。経費の大幅削減を実現しながら有効な新システムを導入できたと思われます。

認証システムの更新によって、パスワード有効期限切れ警告メール等で利便性を高めました。ネットワーク機器の更新によって、建屋間接続の二重化と高速化、ネットワーク障害の被害の最小化を図ると共にネットワーク認証を導入しました。本学のネットワーク（ＫＣ－ＮＥＴ）に登録したノートＰＣ等の機器は、学内の何処の情報コンセントに接続しても、ＨＵＢを介して接続しても、変わらず利用可能になりました。ＥＢ館とＨ館にＫＣ－ＮＥＴの無線アクセスポイントを設置しました。特に新しいＨ館は全館無線ＬＡＮ対応になっています。

新たに導入した動画アーカイブ・ストリーミングサーバは、コンテンツへのアクセス権をe-Learingシステムの Moodle と連携しコース参加者に限定することもできます。また、Web ファイル共有システム（ＤＥＣＯ）を導入し、メール添付に依らない、大容量ファイルの送受信や共有を可能としました。

Web サーバ、メールサーバを始め多数のサーバを利用していますが、その仮想化を試み、今流行のプライベートクラウドを構築しました。サーバの仮想化によって、故障時のサービス停止時間の短縮や省エネルギーが期待できます。関西電力から節電要

請があった１２月から２月において、サーバ室があるＪＤ館の電気使用量が前年比２５％～３０％削減されました。

教室等のＰＣも、MS Windows7、MS Office2010をはじめ最新の環境になりました。

世界女子教育会議

世界女子教育会議（WEW: Women's Education Worldwide）は、米国マサチューセッツ州の伝統ある女子の高等教育機関マウント・ホリヨーク・カレッジとスミス・カレッジの呼びかけで始まり、２００４年６月に最初の代表者会議を開催しました。本学も日本の伝統ある女子大学の一つとして、東京女子大学やお茶の水女子大学と共に、メンバー校として当初から参加してきた経緯があり、２００８年開催のリーダーシップ・カンファレンスにも２人の学生を派遣しました。

２０１１年度には５月３１日から６月３日にかけて、マウント・ホリヨーク・カレッジとスミス・カレッジで、教員対象の WEW Teaching Globally Faculty Conference が開催され、文学部総合文化学科の三杉圭子教授が参加しました。続いて６月６日から１０日にイタリア・パヴィーアのカレッジ・ヌオーヴォで開催された学生リーダーシップ会議 WEW Student Leadership Conference には本学から、英文学専攻の大学院生と英文学科３年生の２人が参加しました。

教員の会議では、世界各国から約１００名の参加者が全体会と分科会で女子教育の在り方を話し合ったということですが、三杉教授によると、それぞれの抱える課題は国によって様々で、女子教育の歴史の長い国と浅い国とでは大きく異なっているという印象が強かったようです。

学生会議には、世界の１０ヵ国から４１人の大学院と学部の学生が参加し、毎日定められたテーマに従いレクチャーとディベートを行いました。またツアーではトリノとミラノに出かけたということです。当然のことながら、この会議を通じて実に多くのことを学び、考え、また、多くの他国の学生と交わる貴重な機会が与えられました。

神戸女学院大学第２回絵本翻訳コンクール

好評を得た昨年に続き、高校生を対象とした「第２回絵本翻訳コンクール」を実施しました。本学の通訳・翻訳教育（学部：通訳・翻訳プログラム、大学院：通訳・翻訳コース）の認知度は向上しつつありますが、その一環としてさまざまな形で翻訳に取り組んでいることは意外に知られていません。多くの高校生に、課題図書の翻訳をとおして世界中の多様な文化に興味を持ってもらうとともに、「神戸女学院大学の翻訳」の認知度を向上させたいとの意図から企画しました。

今年度の課題図書はシンガポールで出版された“The Watchtower Warrior”。１９世紀の中国の農村で、男たちが出稼ぎに行ったあとの村を、盗賊から守る少女の物語です。７月に応募、夏休みに訳出にとりかかってもらうというスケジュールですが、今年は応募をより身近にするため、７月のオープンキャンパスでも翻訳体験教室を開催するなどの工夫を行いました。その結果、北海道から鹿児島まで全国２１都道府県の８８校から２８２作品という、多数の応募がありました。時代背景や固有名詞の難しさから和訳に工夫や苦心の跡が見て取れましたが、昨年をしのぐほどレベルが高く、審査員３名（卒業生で翻訳家・児童文学者の松岡享子氏、いずれも翻

訳家で本学で翻訳を教える田辺希久子准教授と豊倉省子講師）も選択に迷うほどの出来栄えでした。優秀賞に鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校と開成高等学校（大阪）、佳作に京都府立嵯峨野高等学校、京都府立洛北高等学校、大阪府立富田林高等学校の個人またはチームがそれぞれ選ばれました。１０月２２日に行われた表彰式では、優秀賞受賞の２名がスライドショーをバックに、自身の作品をみごとに読み上げ､出席者のあいだから感嘆の声があがりました。

参加者や高校の先生からの評価も高く、今後もぜひ継続してほしいとの声も多々聞かれました。社会や高校生に対して、本学の教育理念を自然な形でアピールできる取り組みとして、今後も継続してゆきたいと考えております。

展示「創立者 イライザ・タルカット ー召天 100 年を記念してー」

創立者イライザ・タルカット先生が天に召されて、２０１１年で１００年になりました。先生の召天１００年を記念して「展示　イライザ・タルカット先生ー召天１００年を記念してー」を、命日の２０１１年１１月１日より２０１２年１月２７日まで、図書館本館２階閲覧室にて開催しました。

これは飯謙学長・学院チャプレンの提案により企画されました。タルカット先生の生涯を大きく「アメリカ時代」「女学校創立」「宣教師として」と３章に分け、各時代を写真や書簡のパネルでたどり、先生使用の讃美歌や聖書､教科書などを展示しました。また１１月１日から４日までは飯学長の記念講演にあわせて、神戸女学院創立以前の私塾時代に英語の教科書として使われた子ども用聖書物語『The Peep of Day』や先生の書き込みのあるローマ字聖書『Shin Yaku Zensho』、女學校（おんながっこう）の募集広告の載った『七一雑報』、先生のサインのある第一回卒業証書、ハワイ日本人教会より贈られた記念写真帖、小磯良平画伯作『タルカット像』など、日頃は書庫の奥深くにあるオリジナルも展示しました。

創立者・タルカット先生の歩んだ人生を振り返ることによって、学生・生徒・教職員をはじめとする多くの人々が神戸女学院やその精神に触れる良い機会になりました。

なお、タルカット先生を宣教師として日本に派遣したアメリカンボード（米国伝道会）についての展示を図書館本館１階史料室閲覧室にて同時開催しました。

4 高大連携

文部科学省のすすめている高等学校と大学との接続において、一人ひとりの能力を伸ばすための高大連携施策として、本学においても出張講義（大学教員が高校に出かけ、専門分野別講義を行う）、招聘プログラム（高校生を本学に招き、授業体験、大学生活体験を提供する）、理学館体験プログラム（人間科学部の研究室、理学館の実験室を体験することでバイオサイエンスを実感してもらう）、聴講プログラム等様々な取組を実施しています。

●出張講義実施状況

担当学科	件数	担当教員
文学部　英文学科	１１	立石、中村昌、田辺、出口真
文学部　総合文化学科	1	大学院生
音楽学部　音楽学科	2	石黒、田中
人間科学部　心理・行動科学科	7	小林哲、國吉、水田
人間科学部　環境・ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	2	高岡、三宅
計	２３	

●招聘プログラム実施状況

	実施日	担当教員		テーマ
県立西宮高等学校	8月24日	人間科学部 心理・行動科学科	小林哲	心理学って何だろう
	8月25日	人間科学部 環境・ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	西田	マウスの解剖実習
	8月26日	文学部　英文学科	中村昌	情報デザインとしての通訳
大阪信愛女学院 高等学校	11月2日	人間科学部 心理・行動科学科	水田	心の不調と心の病気
		人間科学部 環境・ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	西田	細胞を通して生命を考える
和歌山信愛女子短期 大学附属高等学校	11月11日	文学部　英文学科	中村昌	大学で通訳を学ぶ ー将来への展望ー
		文学部　総合文化学科	横田恵	メイクする私たち ー社会学から見てみようー
金蘭会高等学校	12月14日	文学部　総合文化学科	竹中	時間の歴史 ー私たちが得たもの、失ったものー
大阪女学院高等学校	12月15日	人間科学部 心理・行動科学科	水田	心の不調と心の病気

●聴講プログラム実施状況（神戸女学院高等学部対象）

		受講者数	受講科目数	合格者数
2007年度	前期	0	0	0
	後期	6	4	2
2008年度	前期	4	4	4
	後期	5	4	4
2009年度	前期	9	4	7
	後期	13	7	4
2010年度	前期	15	6	3
	後期	1	1	1
2011年度	前期	13	7	10
	後期	12	7	5

●体験プログラム実施状況

		日程	担当教員	講義テーマ	参加者
環境・バイオサイエンス学科	高校教員対象 サイエンス体験	8月1日	中川	高等学校化学に関する種々のマイクロスケール実験	8名
	サイエンス体験	8月2日	遠藤	イチジクとコバチの共生関係を調べてみよう	13名
			三宅	身近な生き物の音から快適な環境について考えてみよう	13名
		8月27日	張野	生活排水を浄化してみよう	25名
			高岡	パンの科学、パンが膨らむ理由を探ろう	25名
	理学館体験	10月1日	野嵜	学科説明会・施設見学会	20名
		11月26日			10名
		3月17日			10名
	県立西宮高校高大連携	8月25日	西田	脊椎動物の解剖実習	20名
		10月26日	野嵜	秋の七草の生態学	13名
		11月2日	塩見	細胞を使って肥満と老化を考える	約20名
		11月9日	三宅	人と環境との関係性を考える	15名
		11月16日	中川	環境に優しいマイクロスケール実験 ールシャトリエの原理をマイクロスケール実験で学ぼう	23名
	動物実験講習会 （マウスの年間使用匹数：95匹）	6月18日	西田		15名
		6月25日			17名
		8月25日			14名
		12月3日			15名
		12月10日			20名
オープンキャンパス					
第3回公開プレゼンテーション ー地域創りリーダー養成プログラム報告会ー		7月30日	遠藤 小林知	野菜の収穫を体験しよう	15名

5 地域貢献

春季公開講座 **食の喜び**			
第１回	5月7日	幸せになる食べ物 高岡素子（人間科学部環境・バイオサイエンス学科教授）	165 名
第２回	5月14日	食とからだ～人間は 食べて 寝て 動かなきゃ～ 井上紀子（体育研究室教授）	127 名
第３回	5月21日	食と音楽～ヨーロッパの文化を通じて～ 榎田雅祥（音楽学部音楽学科教授） 佐々由佳里（音楽学部音楽学科教授）	230 名
			【延べ参加人数 522 名】

秋季公開講座 **絆 ～人とこころの“かたち”～**			
第１回	11月19日	わたしの中の“子ども”―内なる絆の回復― 國吉知子（人間科学部心理・行動科学科教授）	90 名
第２回	11月24日	つながり合って生きる―アフリカでのフィールドワークより― 金田知子（文学部総合文化学科准教授）	70 名
第３回	12月4日	ひきこもりと家族の絆―日本文化論からの考察― 出口真紀子（文学部英文学科准教授）	80 名
			【延べ参加人数 240 名】

大学研究所主催 **講演会**		
6月24日	災害と心 ～心の傷つきと修復、臨床心理学が学んできたこと～ 石谷真一（人間科学部心理・行動科学科教授）	140 名
11月18日	病院ボランティアが学んだ命のメッセージ ～大切にしたいもの～ 前田妙子（本学家政学部児童学科卒・病院ボランティア）	80 名
		【延べ参加人数 約 220 名】

女性学インスティチュート主催 **特別講演会**		
5月27日	神戸女学院大学生気質の変遷 谷 祝子（本学名誉教授）	
		【参加人数 約 160 名】

女性学インスティチュート主催 連続セミナー **アジア・アフリカに学ぶ神戸女学院生**			
第１回	6月10日	エチオピアでの体験学習での学び、そして今ー子どもの教育と女性の生活を中心にー 石井亜紀子（本学中高部職員） 南 佳枝 （京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究 研究科学生） 金田知子 （文学部総合文化学科准教授）	
第２回	6月17日	住居建築ボランティアーアジアからの学びー 海外住居建築ボランティアサークル Harapan House 部員 現地での活動に参加した本学学生 北川将之（文学部総合文化学科専任講師）	
第３回	11月4日	私たちは『慰安婦』問題をどう考えるか 石川康宏ゼミ学生 石川康宏（文学部総合文化学科教授）	
第４回	11月11日	インド体験学習で学ぶ 北川将之ゼミ学生 北川将之（文学部総合文化学科専任講師）	
			【受講者 40 名 修了証交付 13 名】

女性学インスティチュート主催　学外講演会			於：西宮市大学交流センター
第１回	10月6日	なぜつまずいてしまうのか？　－Be 動詞－ 白井由美子（文学部英文学科専任講師）	16 名
第２回	10月13日	日本の国際貿易のあり方－強まるアジアとの相互依存関係 FUKUSHIMA Marcelo（文学部英文学科専任講師）	15 名
			【延べ参加人数　31 名】

宗教センターアッセンブリーアワー　金曜日公開プログラム		
5月6日	さんびかを歌おう♪ 斉藤言子（音楽学部音楽学科教授）	96 名
6月10日	ＥＳＤ学生研究発表会 大学院　人間科学研究科	100 名
6月17日	音楽会 鬼一薫　（ソプラノ　本学卒業生） 別所ユウキ（ピアノ　本学卒業生）	210 名
7月22日	オルガンコンサート 片桐聖子（学院オルガニスト・日本基督教団神戸教会オルガニスト・本学卒業生） 前田直子（学院オルガニスト・日本基督教団豊中教会オルガニスト・本学卒業生）	150 名
9月30日	礼拝 松田　央（大学チャプレン　文学部総合文化学科教授）	30 名
10月7日	特別講演会 Graham F.McKELVIE（音楽学部客員准教授）	120 名
11月4日	タルカット先生召天１００年記念礼拝 飯　謙（学院チャプレン・学長・文学部総合文化学科教授）	130 名
11月11日	宗教音楽の会 大学院　音楽研究科１年	80 名
12月2日	クリスマスオルガンコンサート 西山聡子（学院オルガニスト・日本基督教団大阪教会オルガニスト・本学卒業生） 追中宏美（日本基督教団須磨教会オルガニスト・本学卒業生）	140 名
12月9日	キャロルを歌おう♪ 斉藤言子（音楽学部音楽学科教授）	80 名
2012 年 1月13日	新年礼拝 中野敬一（チャプレン・文学部総合文化学科准教授）	45 名
1月20日	特別講演会 Graham F.McKELVIE（音楽学部客員准教授）	80 名
		【登録人数 225 名、延べ参加人数　1,261 名】

文学部主催　講演会	
2012 年 2月2日	夢をあきらめさせろ？－幸福の国の女学院生たち－ 古市憲寿氏（東京大学大学院）
	【参加人数　約 130 名】

文学部・兵庫県少子対策本部主催　まちの寺子屋師範塾「子どもとアート」		
第１回	10月17日	美術館の利用方法 浜下昌宏（文学部総合文化学科教授）
第２回	10月18日	芸術としての教育・喜びとしての学び 松田高志（本学名誉教授）
第３回	10月19日	音楽才能を伸ばすには 田島孝一（人間科学部心理・行動科学科准教授）
第４回	10月20日	折り紙と空間教育 立石浩一（文学部英文学科教授）
第５回	10月21日	『こどもと芸術』を考える 上西妙子（本学名誉教授）
		【参加人数　10 名】

人間科学部主催				
	日程	担当教員	講義テーマ	参加者
地域創りリーダー養成プログラムイベント	8月5日	出口弘・張野	まなんで、あそぼう、水のこと	25 名
	8月6日	西田・小林知	みんなで楽しく農体験♪ ～ Let's 収穫 Let's eat ～	25 名
	10月8日	遠藤・出口弘		
	11月12日	遠藤・小林知		
	10月15日	遠藤・小林知	みんなで Cooking ♪	10 名
	11月26日	西田・張野		
	12月3日	西田・遠藤・出口弘	学んで、遊ぼう、植物のこと	14 名
こどもサイエンス体験教室	3月17日	野嵜	どんぐりのひみつ	33 名
西宮市立甲東小学校環境体験事業	5月11日	野嵜	自然観察ー調べよう甲東の自然ー	200 名
	7月6日			203 名
	10月5日			201 名
	12月7日			201 名
宝塚市立宝塚中学校	10月15日	横田弘	環境・バイオサイエンス学科体験	17 名
シニア自然大学	5月18日	遠藤	講義「昆虫の分類と生態：なぜ昆虫はこれほど多いか？」	30 名
	5月21日		自然観察会「岡田山昆虫観察」	30 名
心理相談室 アウトリーチ（講演会）	8月22日	小林哲	学校と保護者の関係を考える （浜脇小・香枦園小・浜脇中）	約 100 名
	8月29日	須藤	心の発達や心の問題を抱えた子どもに対する支援の在り方ー特別支援教育を学級経営に生かすために（春風小）	約 40 名
	1月22日	國吉	ストレスとうまくつき合うために （東山ぽぽ保育園）	約 20 名
心理相談室 心相ウィーク（講演会）	8月3日	奥田	「大人になる」とはどういうことか ー青年期の心理的成熟について考える	約 60 名
				【延べ参加人数　1,209 名】

音楽学部主催　音楽学部コンサート			
4月21日	2011年度　神戸女学院大学音楽学部　新人演奏会	いずみホール	352 名
4月27日	神戸女学院大学大学院音楽研究科 第１０回　修士課程修了披露演奏会	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	229 名
6月28日	ベガにオーケストラがやってきた！Ｖｏｌ．２ ～神戸女学院大学音楽学部オーケストラ in　宝塚～ 〈第１８回サマーコンサート〉	宝塚ベガホール	365 名
10月6日	第１８回　オータムコンサート	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	259 名
10月14日	神戸女学院大学音楽学部音楽学科舞踊専攻 第３回　卒業公演	芦屋ルナホール	510 名
11月9日	神戸女学院大学大学院音楽研究科生による 音の響宴　Ｖｏｌ．５	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	214 名
11月29日	2011年度　神戸女学院大学音楽学部　定期演奏会	神戸国際会館 こくさいホール	546 名
2012年 2月22～24日	2011年度卒業生　卒業演奏会	神戸女学院講堂	300 名
3月8日	神戸女学院大学音楽学部音楽学科舞踊専攻 第６回公演	兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール	479 名
3月9日			611 名
【延べ入場者数　3,865 名】			

「ピアニスト小倉末子と東京音楽学校展」記念　室内楽コンサート 主催：神戸女学院大学音楽学部、東京芸術大学音楽学部 台東区立旧東京音楽学校奏楽堂（台東区芸術文化財団）			
11月3日	第１回コンサート「２台のピアノ」	台東区立 旧東京音楽学校奏楽堂	244 名
11月23日	第２回コンサート「弦楽とピアノのアンサンブル」		196 名
【延べ入場者数　440 名】			

音楽学部主催　子どものためのコンサート・シリーズ		
7月2日	第31回　子どものための七夕コンサート　～願いを音にこめて～	729 名
10月15日	第32回　子どものためのスペシャル・コンサート	137 名
12月10日	第33回　子どものためのクリスマス・コンサート ～モーツァルトとクリスマス☆～	794 名
【延べ入場者数　1,660 名】		

6 その他の事業

	学 院	大 学
4月	新任教職員就任式	入学式、入寮式 新入生歓迎会・オリエンテーション、登録ガイダンス ＩＴオリエンテーション フレッシュマンキャンプ（六甲セミナーハウス、ウェスティンホテル淡路、南淡路ロイヤルホテル） 春季教授会研修会
5月	創立者記念日墓前礼拝 ホルブルック記念館起工式 開催100周年記念　東日本大震災被災者支援　愛校バザー	大学職員ＳＤ研修会Ⅰ（防災訓練を含む） 春季宗教強調日 米国ケネソー州立大学研修プログラム（本学）
6月		保護者懇談会（本学、広島市） 入学者選抜説明会（高校教員対象）
7月	学院リトリート	保護者懇談会（金沢市） 音楽学部夏期講習会（本学） 夏のオープンキャンパス
8月		大学職員ＳＤ研修会Ⅱ（ミニ懇話会） 夏期語学研修（西オーストラリア大学、サセックス大学、カルフォルニア大学アーバイン校）
9月		海外ゼミ研修・体験学習（フィリピン、アメリカ合衆国、インド、韓国） 保護者懇談会（本学・第２学年対象） 保護者のための就職セミナー（本学） 協定更新記念シンポジウム（廣東外語外貿大学） ＥＳＤ推進プログラム修了式 公募制推薦入試説明会（大阪難波）
10月		公募制推薦入試説明会（本学） インターンシップ報告会 舞踊専攻卒業公演 インド学生研修プログラム（本学） 大学職員ＳＤ研修会Ⅲ 秋季教授会研修会 記念賞授与式
11月	専任職員ＳＤ研修会 宗教強調週間	宗教強調週間 一般入試過去問特別講座
12月	クリスマス礼拝	一般入試説明会（本学、天王寺） IP-TOEIC テスト（１年生対象） クリスマスオープンキャンパス
1月		
2月		IP-TOEIC テスト（２年生、通訳プログラム受講生、英文学科３年生対象） 卒業研究発表会 春期語学研修（クイーンズランド大学、ヨーク大学）
3月	東日本大震災追悼礼拝 ホルブルック記念館献堂式	ハンナ・ギューリック・スエヒロ記念賞授与式 学位記授与式 春のオープンキャンパス 大学職員ＳＤ研修会Ⅳ（ミニ懇話会） 新入生英語クラス分けテスト

	中高部	中高部　生徒の活動
4月	Ｊ１オリエンテーション Ｊ１デイキャンプ(1)(2) 中学部入学式、高等学部入学式 宗教部主催修養会（水上隣保館訪問） ＰＴＡ総会 春の遠足 春の子ども会（Ｓ自治会・関学共催）	第 27 回成田山全国競書大会：読売賞（S1生）、成田山賞（S3生、S2生、S1生）
5月	聖書を学ぶ会（6,10,1,2 月の計５回） ＰＴＡ岡田山散策会 教育実習	
6月	体育祭 人権学習会 芸術鑑賞会 防災訓練 ＰＴＡ文化講演会 宗教部・自治会共催修養会（釜ヶ崎訪問）	兵庫県私立中学高等学校連合会英語教育研究会主催兵庫県私立高校第7回英語スピーチ・コンテスト：第2位（S2生）
7月	ＪＳ校内大会 リーダーシップ・トレーニングキャンプ 宗教部主催修養会（長島愛生園・邑久光明園訪問）	第 31 回西宮市中学校総合体育大会卓球大会：女子団体上級生の部第 2 部優勝（J3生4名、J2生2名）、女子団体下級生の部第3位（J2生6名） 平成 23 年度第 55 回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技：女子団体 第3位（J3生9名、J2生1名） 第 55 回兵庫県中学校総合体育大会（新体操競技大会）：第3位（J3生5名） The 5th Music Revolution Presents 大阪エリア大会（近畿大会相当）予選：奨励賞（S1生4名）
8月	夏山登山 宗教部主催修養会（広島訪問） 教職員研修会	第 38 回全国中学生テニス選手権大会：団体ベスト32（J3生9名、J2生1名）、ダブルスベスト32（J3生、J2生） 2011 年度兵庫県合唱コンクール：中学校・高等学校の部銅賞（S3生、S2生3名、S1生4名、J3生、J2生3名） 第 61 回阪神ESSユニオンシナリオリーディングコンテスト：第1位（S2生8名、S1生3名） 第 16 回全日本高校・大学生書道展：展賞（S3生）、優秀賞（S3生2名、S2生、S1生）、準優秀賞（S2生、S1生4名）
9月	文化祭	2011 年度西宮市中学校新人大会（卓球）団体戦：第3位（J2生8名） 西宮市高校ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ秋季大会兼西宮市ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ協会長杯ﾀﾞﾌﾞﾙｽの部：1年生第2位（S1生2名） ﾌﾞﾘｶﾞﾑ・ﾔﾝｸﾞ大学ﾊﾜｲ校第 13 回全国高校生英語スピーチコンテスト関西第二地区予選大会：優勝（S2生）
10月	中学部入試説明会 Ｓ２修学旅行、Ｊ３小旅行 Ｓ１一泊研修 Ｊ１、Ｊ２、Ｓ３遠足	第 60 回ﾁｬｰﾁﾙ杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会：西日本予選第2位（S2生） 第 53 回市長楯争奪卓球選手権（カデット・中学1年生の部）：第3位（J1生） 2011 年度第 24 回姫路獨協大学高校生英語スピーチコンテスト：姫路獨協大学同窓会賞（S2生） 2011 年度第 39 回兵庫県私立学校読書感想文コンクール：特選（S2生2名、J2生3名）、入選（S2生） 第 35 回兵庫県高等学校総合文化祭囲碁部門：女子個人戦第3位（S1生）
11月	宗教強調週間 ＰＴＡ宗教講話 中学部学校説明会 人権学習会 秋の子ども会	第 60 回ﾁｬｰﾁﾙ杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会：全国大会第3位（S2生） 第 28 回茨木市国際親善都市協会英語スピーチ大会：第3位（J3生） 広島女学院大学第 5 回ゲーンズ杯高校生英語スピーチ・コンテスト 2011：第3位（S1生） 第 44 回兵庫県私学総連合会「私学の書展」：特選（S1生） 第 31 回近畿高等学校総合文化祭囲碁部門：女子個人戦Ａ優勝、女子団体府県対抗戦優勝（S1生） 第 9 回西日本高校フランス語スケッチ暗唱大会：フランス大使館賞（S2生2名） 聖学院大学第 7 回英語スピーチコンテスト：優秀賞（S1生） 平成 23 年度兵庫県中学校秋季テニス大会：団体戦第3位（J2生7名） 税に関する書道：会長賞（J1生、J3生） 中学生の税についての書道：西宮宝塚租税教育推進協議会賞（J3生）
12月	ＰＴＡクリスマス礼拝 クリスマス礼拝 宗教部・自治会共催修養会（釜ヶ崎訪問）	第 57 回青少年読書感想文兵庫県コンクール：知事賞（J2生）、県学校図書館協議会賞（S2生）、佳作（J2生） 鳳凰杯第 10 回全国中学生英語スピーチコンテスト：優秀賞（J3生）
1月	中学部入試 文化スポーツ賞・部長賞表彰式	第 23 回上野学園―ゴードンストン英語コンテスト：優勝（J3生）
2月	人権学習会	第 57 回青少年読書感想文全国コンクール：中学校の部入選（J2生）
3月	高等学部卒業式 ＰＴＡ常任幹事会 讃美歌コンクール 中学部卒業式	

Ｊは中学部、Ｓは高等学部、数字は学年を示す

7 施設・設備

メアリー・アンナ・ホルブルック記念館新築

---------- 417百万円

大学の実験設備の拡充及び地域共生プロジェクト用施設の充実を図るため、実験棟、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館（H館）を竣工し、３月２８日に献堂式を行いました。H館は校地の西中央部に位置し、地下１階、地上３階建、延1780.98㎡で、２０１１年５月着工しました。実験室６室、研究室６室、会議室２室、１５０人収容可能な講義室、学生の憩いの場である屋上テラスを設けています。外観はヴォーリズ建築の伝統に沿って緑豊かなキャンパスに調和させ、建物内部おいても機能性と美観をバランスよく取り入れ、格調高い仕様となっています。

この新しい実験棟、ホルブルック記念館の完成により、本学の教育活動がより充実し、学生生活が一層豊かになることが期待できます。

社交館耐震補強他

---------- 32百万円

建物の耐震性能の強化を図るため、1階に耐震スリット、2階に５箇所の耐震補強壁を設置した結果、新耐震基準に沿った建物となりました。また、今回の工事に併せて、外部サッシの取替・内外壁塗装・カウンセリングルームの内装改修等を行いました。

学生寮エアコン取替

---------- 29百万円

１９９７年の竣工以来使用してきた学生寮エアコンは、経年劣化による故障や機能低下によるランニングコストの増加が見られたため、全ての寮室及び共用部のエアコンを省電力型に更新しました。

防災設備工事

---------- 26百万円

中期修繕計画である防災設備工事の項目のうち、自動火災報知設備を中高部１・２号館、社交館他２棟に設置し、放送設備をデフォレスト記念館、社交館に設置しました。また、今回の工事に併せて、中高部１号館、岡田山ロッジの天井を、不燃天井材とし、照明器具の取替も行いました。

8 入試に関する状況

● 神戸女学院大学

〔2012年度入試概況〕

今年度の入試は、入試制度の大幅な変更がなかったこと、前年度志願者が増加したことの反動で志願者の減少が心配されましたが、昨年とほぼ同数の志願者数を獲得しました。

昨年同様、長引く不況を反映して学費の安い国公立大学志向、地元志向、資格重視の傾向が続くという本学にとって不利な状況ではありますが、必要想定者数以上の入学者数を確保することができました。

オープンキャンパスほか学校見学会　来場者数

開催日	名称	人数
7月30日	夏のオープンキャンパス	856
7月31日	夏のオープンキャンパス	1,187
9月23日	公募制推薦入試説明会（難波）	97
10月1日	公募制推薦入試説明会	188
11月26日	一般入試過去問特別講座	120
12月17日	クリスマスオープンキャンパス	345
3月17日	春のオープンキャンパス	349
総計		3,142

学外進学相談会　参画会場数

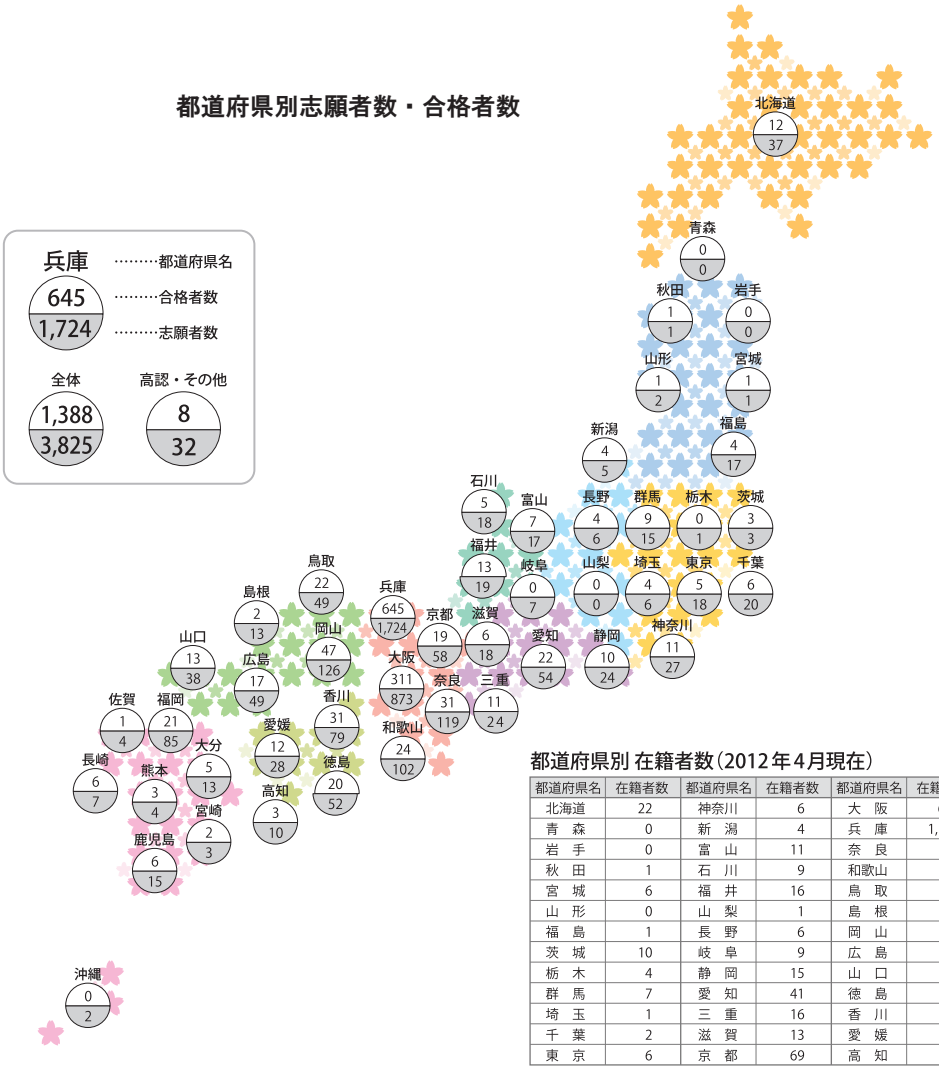
地区	対面	資料のみ	計
北海道	1	0	1
宮城	1	2	3
茨城	0	1	1
富山	1	0	1
石川	3	1	4
福井	0	1	1
岐阜	0	1	1
静岡	5	5	10
愛知	3	1	4
三重	2	1	3
滋賀	1	0	1
京都	2	5	7
大阪	28	7	35
兵庫	27	5	32
奈良	2	2	4
和歌山	1	3	4
鳥取	1	3	4
島根	0	2	2
岡山	7	0	7
広島	6	1	7
徳島	4	1	5
香川	4	3	7
愛媛	2	1	3
高知	2	1	3
福岡	4	1	5
熊本	1	1	2
大分	1	0	1
鹿児島	1	1	2
総計	110	50	160

入試制度別状況

		志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般入学試験前期Ａ日程		794	779	283	2.8
一般入学試験前期Ｂ日程		672	663	211	3.1
一般入学試験前期Ｃ日程		559	397	125	3.2
一般入学試験前期D日程	センター１科目型	319	206	91	2.3
	センター２科目型	207	137	55	2.5
大学入試センター試験を利用する入学試験	２科目型	189	189	63	3.0
	３科目型	200	200	79	2.5
	４科目型	73	73	34	2.1
一般入学試験後期日程		156	150	40	3.8
公募制推薦入学試験		366	364	142	2.6
AO入学試験		30	30	13	2.3
帰国子女入学試験		4	3	3	1.0
社会人入学試験		2	2	1	2.0
外国人留学生入学試験		0			
編入学試験		1	1	1	1.0

指定校制推薦入学試験は除く

都道府県別志願者数・合格者数

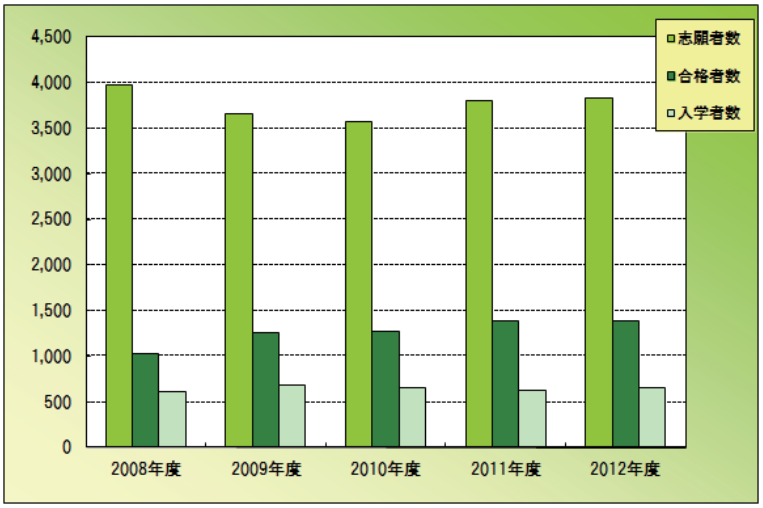


都道府県別 在籍者数（2012年４月現在）

都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数
北海道	22	神奈川	6	大　阪	698	福　岡	36
青　森	0	新　潟	4	兵　庫	1,182	佐　賀	2
岩　手	0	富　山	11	奈　良	74	長　崎	14
秋　田	1	石　川	9	和歌山	66	熊　本	10
宮　城	6	福　井	16	鳥　取	18	大　分	6
山　形	0	山　梨	1	島　根	9	宮　崎	8
福　島	1	長　野	6	岡　山	73	鹿児島	10
茨　城	10	岐　阜	9	広　島	34	沖　縄	2
栃　木	4	静　岡	15	山　口	20		
群　馬	7	愛　知	41	徳　島	24		
埼　玉	1	三　重	16	香　川	33		
千　葉	2	滋　賀	13	愛　媛	21	その他	23
東　京	6	京　都	69	高　知	20	合　計	2,659

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
志願者数	3,969	3,660	3,573	3,816	3,825
合格者数	1,028	1,253	1,278	1,405	1,388
入学者数	615	687	651	629	655

2012年度　編入学試験で音楽学部1名入学



● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
志願者数	44	64	55	46	48
合格者数	25	36	35	34	25
入学者数	24	32	32	32	23

博士後期課程

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
志願者数	7	5	2	1	4
合格者数	6	5	2	0	3
入学者数	6	5	2	0	3

● 神戸女学院中高部

中学部

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
志願者数	272	278	257	260	277
合格者数	155	158	157	150	153
入学者数	150	143	144	136	142

高等学部　全日制課程　普通科　　募集なし

9　留学に関する状況

●　神戸女学院大学・大学院

〔２０１１年度留学概況〕

本学の教育理念の一つである「国際理解の精神」の涵養を目指し、２０１１年度は主に「学生の海外派遣」「留学生の本学受入れ」「キャンパスでできる国際交流」を中心に様々な国際交流事業を実施しました。

外国人留学生の受入れ環境を充実させるため、２０１１年度も外国人留学生を対象とした茶道や華道などの日本文化を学ぶ「Introduction to Japanese Culture」および日本の現代事情を学ぶ「Current Issues in Japan」の２科目を国際交流センターで開講しました。両講義とも英語で行われ、本学学生も履修することができます。また、留学生をサポートする留学生バディたちが、初めて日本に来た留学生に対して適切な生活・学習サポートを行いました。

残念ながら、東日本大震災の影響で何名かの外国人留学生が母国へ帰国せざるをえなくなり、また、ワイオミング大学オナープログラムが中止となりましたが協定校であるミリアム大学（フィリピン）の学生グループが１１月１５日～１１月２９日（１５日間）の間、２０１０年に引き続き本学を訪問しました。期間中はケンウッド館に滞在し、日本語研修や特別講義（英語で実施）を受講したほか、広島女学院大学のご厚意によって１泊２日の広島研修も行いました。講義や週末ホームステイ、歓送迎会等を通して学生との交流が深まり、双方にとって非常に有意義でした。これ以外にもケネソー州立大学（米国）、セントジョセフ・カレッジ（インド）、梨花女子大学（韓国）の学生を短期間受入れし、それぞれ本学学生たちとの交流の機会を持ちました。

学生の海外派遣プログラムとして、「派遣留学・認定留学」「中期英語留学」「中期海外研修」「春期・夏期語学研修」の４種類を実施しています。派遣留学については、２００９年度から発足していた徳成女子大学（韓国）との交換留学に、初めて本学学生２名を派遣しました。また、クイーンズランド大学（オーストラリア）中期海外研修にも学生が初めて参加し、２０１１年８月～２０１２年３月で約２０週間の英語研修と約４週間のインターンシップを無事に修了いたしました。さらに、昨今の中国語への需要の高まりを受けて、協定校である広東外語外貿大学（中国）での中国語語学研修と上海でのビジネスセミナーを組み合わせた中国語語学研修（中国語研修と中国最新事情セミナー）を新たに実施しました。また、海外での事故や災害など緊急事態の場合の安否確認や長期滞在下のメンタルヘルスケアを行う危機管理サポートを導入しました。

学内における語学教育面でのサポートとしては、２０１０年に引き続き、留学準備を目的とした「TOEIC Preparation」（ＡＣクラス）や、課外の「留学対策講座」（有料、前後期各１シリーズ約１０回）を開講し、主としてTOEFLのスコアアップに努めました。留学説明会や国際交流フェア、K-CLIPの留学生ブログにより、海外派遣プログラムへの関心を喚起し、情報提供も行っています。

大学内で体験できる国際交流を目的としたプログラムには、前述の留学生バディ制度、外国人留学生たちとの交流会（歓送迎会や留学生バディ主催の七夕パーティ・クリスマスパーティ）、夏期休暇中にオックスフォード大学・ケンブリッジ大学（英国）の学生を講師に招いての英語合宿や、国際交流フェアで実施した韓国・アメリカからの留学生たちと韓国語、英語で交流するK-zone、E-zone（英文学科のプログラムを国際交流フェアでも実施）、海外からの短期訪問などの際に行った英語キャンパスツアーなどが挙げられます。また、ホストファミリー登録制度も新たに発足し、海外の学生との交流に関心のある学生に対して、年間を通じてホームステイ受け入れの情報を提供できるようになりました。

今後もより充実した国際交流プログラム提供し、学生達が「国際理解の精神」を体得できるよう国際交流事業を実施してまいります。

本学から海外へ

	大学名	国名	人数	期間
派遣留学	ワイオミング大学	アメリカ	1	1年
	梨花女子大学	韓国	2	1年
	徳成女子大学	韓国	2	5ヶ月
	広東外語外貿大学	中国	2	1年
	ミリアム大学	フィリピン	2	5ヶ月
	国別集計	アメリカ	1	
		韓国	4	
		中国	2	
		フィリピン	2	
大学院派遣留学（大学院）	モントレー国際大学 ミドルベリー大学 の大学院	アメリカ	1	1年
長期派遣	計		10	

	大学名	国名	人数	期間
認定留学	梨花女子大学	韓国	1	1年
	計		1	

	大学名	国名	人数	期間
中期英語留学	チャタム大学	アメリカ	13	7ヶ月
	計		13	

	大学名	国名	人数	期間
中期海外研修	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	1	7ヶ月
	クイーンズランド大学	オーストラリア	1	7ヶ月
	計		2	

	大学名	国名	人数
語学研修	夏期：カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	18
	夏期：西オーストラリア大学	オーストラリア	9
	夏期：サセックス大学	イギリス	20
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	13
	春期：ヨーク大学	イギリス	17
	春期：広東外語外貿大学	中国	6
	国別集計	アメリカ	18
		オーストラリア	22
		イギリス	37
		中国	6
	計		83

本学から海外へ	総計	109

海外から本学へ

プログラム	大学名	国名	人数	期間	備考
交換留学	ワイオミング大学	アメリカ	1	1年	総合文化学科1名
	梨花女子大学	韓国	2	1年	総合文化学科2名
	徳成女子大学	韓国	4	半年	総合文化学科4名（前期2名・後期2名）
	広東外語外貿大学	中国	1	1年	文学研究科1名
科学技術振興調整費による受入	徳成女子大学	韓国	1	1年	人間科学研究科「地域からＥＳＤを推進する女性環境リーダー育成プログラム」による受入
	華南師範大学	中国	1		
	ミリアム大学	フィリピン	1		
	プトラ大学	マレーシア	1		
	ダナン工科大学	ベトナム	1		
	サムラトランギ大学	インドネシア	1		
私費留学		中国	1	4年	心理・行動科学科1名
		韓国	1	4年	総合文化学科1名
長期受入	国別集計	アメリカ	1		
		中国	3		
		韓国	8		
		フィリピン	1		
		マレーシア	1		
		ベトナム	1		
		インドネシア	1		
	計		16		

	大学名	国名	人数	期間	備考
JLCP	ミリアム大学	フィリピン	4	15日間	
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	3	8日間	
	ケネソー州立大学	アメリカ	9	7日間	
ESD ワークショップ：地域に根ざした学生の活動	梨花女子大学	韓国	8	3日間	
短期受入	計		24		

海外から本学へ	総計	40	

● 神戸女学院高等学部

本学から海外へ

	学校名	国名	人数	期間
公認留学	Zachary High School	アメリカ	1	2010.7 ～ 2011.7
	KS Zuercher Oberland	スイス	1	2011.2 ～ 2012.1
	Methodist Ladies' College	オーストラリア	1	2011.1 ～ 2011.7
	計		3	

海外から本学へ　東日本大震災等の影響のため受入なし

10 卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況

● 神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部				計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	人間科学科		心理・行動科学科	環境・ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	
				人間行動科学専攻	人間環境科学専攻			
2007年	158	224	49	108	82	—	—	621
2008年	164	228	49	8	—	78	91	618
2009年	147	218	55	2	—	109	83	614
2010年	162	220	51	1	—	98	95	627
2011年	177	225	49	—	—	91	81	623

2008年度（人間科学部）からは学科改編後の卒業生数、2010年度以降については前期末（翌年9月）卒業を含まない

● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科				音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	日本文化学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現専攻	人間科学専攻	
2007年	10	2		6	6	12	36
2008年	7	2		4	7	6	26
2009年	2	—		4	7	12	25
2010年	6	1		1	4	12	24
2011年	12	1		1	7	8	29

2010年度以降については前期末（翌年9月）卒業を含まない

博士後期課程

博士後期満期退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2007年	2	—	1	3
2008年	3	2	1	6
2009年	1	4	—	5
2010年	2	2	—	4
2011年	1	3	—	4

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2007年	—	—	1	1
2008年	—	—	—	—
2009年	—	—	1	1
2010年	1	—	1	2
2011年	—	—	2	2
博士後期課程設置当初からの累計	5	0	12	

● 神戸女学院中高部

	中学部
2007年	147
2008年	152
2009年	142
2010年	149
2011年	143

	高等学部
2007年	183
2008年	141
2009年	138
2010年	147
2011年	149

11　就職・進学状況等

●　神戸女学院大学

〔２０１１年度就職概況〕

２０１１年度は３月１１日の東日本大震災の影響で、金融大手などの採用選考開始が後ろ倒しとなりました。選考が開始されるまでの間、スケジュールが空いたことで不安をかかえる学生の相談が相次ぎ、急遽キャリアカウンセラーを配置し対処しましたが、選考が落ち着いた７月末の時点でも、進路を決定し活動を終えた学生は就職希望者の約２割で、選考スケジュールの延期から就職活動の長期化が例年以上に懸念されました。

最終的に今年の就職内定率は８９．５％と厳しい結果になりました。決定先の業界は金融を中心に、卸売・小売、製造、サービス、医療・福祉と大きな変化は見られません。しかし、学生に人気の高い金融も決定者の割合は減りつつあり、就職先となった企業の内訳は例年より広範囲に亘っています。厳しい就職状況の中、学生の意識は確実に変化してきており、有名企業に偏るのではなく、学生自身が自分に合った企業を自分で開拓するケースが見られるようになったことは、今年の特徴の１つだと言えます。また、職種についての知識を十分持たずに事務職へのこだわりがある学生が多いことから、営業職に特化した職種研究セミナーを行ったこと、実際に営業職に従事する方の話を聞く機会を設けたことで、学生の営業職に対する意識にも変化が見られました。

内々定が出始め周囲に活動を終える学生が増えてくると、就職活動は特に孤独になりがちです。諦めそうになる学生に対し、電話連絡、面談、これまで提出したエントリーシートの点検、面接指導など、個別の支援に力を入れてきました。また、ハローワーク西宮との連携による求人紹介や個別相談会、パソナのフレッシュキャリア社員制度説明会などを実施し、最終的に内定に至ったケースもありました。

就職状況は厳しい今年度でしたが、今後に繋がる話題が複数あります。Ｕターン就職希望者が多い学生寮では、４年生同士でお互いに分析しあう、模擬面接を通して足らないところを指摘しあうなど「就活はチームで」を実践し、非常に高い内定率を上げました。

また、今年の卒業生の中にも難関と言われている企業に総合職で就職を決めた者、ここ数年内定者が出ていなかった大手に一般職で内定を得た者もあります。これまであまりチャレンジしてこなかった企業から内定を得る学生が少しずつでも増えることは、後輩たちのモチベーションアップに繋がります。実際、本学から初めて１名の内定者が出たご縁で、東京の大手総合電機メーカーが３年生を対象とした２月の学内企業セミナーに参加を申し出てくださり、後輩たちには新しい企業を直接見るチャンスが１つ増えました。

また、４年生の内定者たちが就職活動を始めた３年生を応援したいと申し出てくれ、キャリアサポーターとして１２月と１月の２か月間、何でも相談会、グループディスカッション講座、エントリーシート添削、模擬面接などのミニセミナーを企画、実施しました。３年生にとってもちろん有意義なセミナーになりましたが、企画書の作成、セミナーの実施、実施後の振り返りなどをすべて自分たちで行ったことは、これから社会人となる４年生のサポーターにとっても、非常に実り多いものとなったようです。

景気の先行きが不透明な中で、企業の厳選採用と採用のグローバル化が進み、今後も大学生の就職が非常に厳しい状況であることに変わりはありません。次年度は、新３年生に対して、学生が苦手とする非言語数理分野の筆記試験対策や、自己分析、職種・企業・業界研究のより充実を目指し、新４年生には、４年生対象の学内企業セミナーを新たに複数回開催するなど、キャリアセンターでの学生支援をさらに強化していく予定です。また、学生を社会に送り出すためのより抜本的な対策として、学生の就業力育成のための本学の方針を策定することも重要であると思われます。

●３年生対象キャリア支援プログラム実施状況

就職ガイダンス		
6月	24 金	ガイダンス：卒業後の進路を知る
7月	1 金	適性テスト
	2 土	SPI 模擬試験　※有料
	8 金	ガイダンス：「就職活動」を知る
	15 金	就職ナビ副編集長が語る就活の実際
	22 金	進路選択に生かす「ビジネスと社会」入門講座
	29 金	適性テストフォローアップセミナー
8月	1 月 ～ 3 水	SPI 集中対策講座　※有料
	24 水	夏休み就活特別セミナー
9月	14 水 ～ 16 金	就職文章力アップ講座　※有料
	20 火	自己分析ワークショップ
	21 水	業界研究プレ講座「新聞の読み方」
	22 木	グループディスカッション実践講座
	28 水	業界研究講座①
10月	6 木	業界研究講座②
	13 木	業界研究講座③
	19 水	業界研究講座④
	21 金	職種研究講座：事務職と営業職の実際
	26 水	企業理解セミナー：本学 OG が多い企業について
11月	4 金	就活で必要になるマナー講座
	9 水	採用担当からのメッセージ
	16 水	力のある中小・中堅企業の見つけ方
	18 金	業界研究セミナー①【マスコミ（放送）】
	30 水	エントリーシートの書き方講座
12月	2 金	業界研究セミナー②【メーカー】
	7 水	面接研究講座：重要なポイントについて
	9 金	業界研究セミナー③【金融】
	10 土	SPI 対策講座
	16 金	業界研究セミナー④【商社】
	17 土	SPI 模擬試験　※有料
		面接対策実践講座①　※有料
	21 水	業界研究セミナー⑤【マスコミ（新聞）】
	24 土	エントリーシート直前対策講座※有料
1月	11 水	企業研究講座
	16 月	業界研究セミナー⑥【電力】
	19 水	大阪国税局セミナー
	20 金	就活直前対策講座
	23 月 ～ 27 金	面接対策講座①　※有料
2月	3, 4, 6 ～ 9	学内企業セミナー（42 社）
	15 水 16 木	面接対策実践講座②　※有料
	17 金	学内合同企業セミナー（15 社）
3月	12 月	自己PRにつなげる自己分析マスター講座
	15 木	Web－SPI対策講座
	21 水	模擬面接講座

●他学年対象キャリア支援プログラム実施状況

４年生対象		
4月	20 水	就職対策セミナー①
	27 水	就職対策セミナー②
5月	25 水	就職対策セミナー③
6月	21 火	就職対策セミナー④
7月	20 水	就職対策セミナー⑤
8月	24 水	就職対策セミナー⑥
9月	28 水	就職対策セミナー⑦

２年生対象		
10月	7 金	2年生対象進路ガイダンス①
11月	18 金	「女性とキャリア」ロールモデルを探そう①
	25 金	「女性とキャリア」ロールモデルを探そう②
12月	9 金	2年生対象進路ガイダンス②

１年生対象		
10月	14 金	1年生対象進路ガイダンス
12月	7 水	1年生対象適性検査
1月	18 水	1年生対象適性検査フォローアップガイダンス

学年不問		
6月	3 金	エアラインセミナー
7月	2 土	OG セミナー①
	13 水	公務員ガイダンス
10月	22 土	OG セミナー②
11月	18 金	留学と就職
12月	10 土	OG セミナー③
1月	25 水	公務員受験対策講座
2月	4 土	OG セミナー④

その他
・秘書技能検定講座 　2級、準1級　春期・夏期2回実施 ・TOEIC 対策講座　春期・夏期集中講座 ・公務員受験対策講座　春期・夏期集中講座 ・キャリアカウンセラーによる個別面談 　（6 月～ 2012 年 3 月） ・3年生対象新聞読み会（6 月以降毎週水曜） ・就職活動体験報告会（11 月～ 12 月）

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
卒業生数	613	606	614	625	613
希望者数	530	493	504	486	494
決定者数	524	485	446	440	442
進学者数	26	31	36	30	29

主な就職先（2011年度）

企業名	企業名	企業名
（株）三菱東京ＵＦＪ銀行	三井住友海上火災保険（株）	岩谷産業（株）
明治安田生命保険（相）	富士火災海上保険（株）	スターバックスコーヒージャパン（株）
日本生命保険（相）	ロックペイント（株）	（株）住友倉庫
（株）三井住友銀行	ハイレックスコーポレーション（株）	（株）竹中工務店
全日本空輸（株）	（株）ＪＡＬスカイ大阪	ダイキン工業（株）
（株）ＡＮＡエアサービス東京	（株）韓進インターナショナル ジャパン	トヨタ自動車（株）
（株）ハマノコンタクト	ホテルニューアワジグループ	（株）ナガオカ
（株）ワールドストアパートナーズ	住友不動産販売（株）	富士電機（株）
高見（株）	住友三井オートサービス（株）	ヤマト運輸（株）
兵庫六甲農業協同組合（ＪＡ兵庫六甲）	（株）エイチ・アイ・エス	（株）淀川製鋼所
野村證券（株）	（医）貴生会　和泉中央病院	りそなホールディングス
みずほフィナンシャルグループ	アースサポート（株）	ヤフー（株）
（株）京都銀行	（株）ベネッセスタイルケア	楽天（株）
（株）関西アーバン銀行	アステラス製薬（株）	レンゴー（株）
播州信用金庫	イオンモール（株）	守口市役所

人数の多い順に記載

進学先（2011年度）

学校名	人数	学校名	人数
千葉大学大学院　医学薬学府	1	甲南大学大学院　人文科学研究科	1
神戸大学大学院　人文学研究科	1	武庫川女子大学大学院　文学研究科	1
神戸大学大学院　人間発達環境学研究科	2	パリ・エコール・ノルマル音楽院	2
大阪大学大学院　人間科学研究科	1	立正大学大学院　心理学研究科	1
上智大学大学院　地球環境学研究科	1	神戸女学院大学大学院　文学研究科	4
関西学院大学大学院　社会学研究科	1	神戸女学院大学大学院　音楽研究科	6
慶應義塾大学大学院　政策メディア研究科	1	神戸女学院大学大学院　人間科学研究科	6

年度毎の就職決定状況

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／希望者	進学者数	決定者／（卒業生ー進学者）
2007年度	英文	154	145	143	98.6%	3	94.7%
	総合文化	221	204	202	99.0%	1	91.8%
	音楽	49	16	15	93.8%	7	35.7%
	人間行動	107	92	92	100.0%	10	94.8%
	人間環境	82	73	72	98.6%	5	93.5%
	総計	613	530	524	98.9%	26	89.3%
2008年度	英文	160	140	139	99.3%	2	88.0%
	総合文化	222	191	186	97.4%	5	85.7%
	音楽	49	26	25	96.2%	6	58.1%
	心理・行動	84	62	61	98.4%	8	80.3%
	環境・バイオサイエンス	91	74	74	100.0%	10	91.4%
	総計	606	493	485	98.4%	31	84.3%
2009年度	英文	147	126	108	85.7%	7	77.1%
	総合文化	218	189	163	86.2%	7	77.3%
	音楽	55	26	26	100.0%	8	55.3%
	心理・行動	111	91	82	90.1%	9	80.4%
	環境・バイオサイエンス	83	72	67	93.1%	5	85.9%
	総計	614	504	446	88.5%	36	77.2%
2010年度	英文	160	128	123	96.1%	8	80.9%
	総合文化	220	182	159	87.4%	2	72.9%
	音楽	51	19	16	84.2%	6	35.6%
	心理・行動	99	79	72	91.1%	7	78.3%
	環境・バイオサイエンス	95	78	70	89.7%	7	79.5%
	総計	625	486	440	90.5%	30	73.9%
2011年度	英文	174	145	130	89.7%	4	76.5%
	総合文化	222	191	170	89.0%	2	77.3%
	音楽	48	25	20	80.0%	10	52.6%
	心理・行動	90	68	63	92.6%	6	75.0%
	環境・バイオサイエンス	79	65	59	90.8%	7	81.9%
	総計	613	494	442	89.5%	29	75.7%

備考　前期末卒業を含まない
就職者：正規の職員・従業員、自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
正規の職員ではない者（雇用期間が１年以上かつフルタイム勤務相当の者）
進学者：大学院進学者のみ（海外大学院含む）

● 神戸女学院中高部　進学状況は非公表

Ⅲ． 財務の概要

1 2011年度決算の概要

消費収支についてみると、定員管理の厳格化に伴う在校生の減少により学生生徒等納付金が減少（前年度比 52 百万円減）、また、私立大学等経常費補助金の算定方法変更等の影響により補助金収入も減少（前年度比 71 百万円減）しました。

一方､世界的なソブリンリスクの高まりを背景に、保有有価証券の信用リスクを低減することを目的として、財投機関債を売却した結果、93 百万円の資産売却差額を計上しましたが、収入減を解消するには至らず、帰属収入は 53 億 35 百万円（前年度比 85 百万円減）となりました。

また、消費支出の部は、ネットワーク・情報教育システムの更新などにより教育研究経費が大幅に増加し、前年度比 2 億 25 百万円増の 49 億 86 百万円となりました。

その結果、帰属収支差額は 3 億 48 百万円の収入超過となりましたが、帰属収支差額比率は 6.5%と、目標値である 8.0%を下回る結果となりました。

さらに、ホルブルック記念館新築工事（3 億 62 百万円）等の施設関係支出、ネットワーク・情報教育システム（73 百万円）等の設備関係支出などの設備投資を実施した結果、今年度は 9 億 24 百万円の基本金組入が必要となり、消費収支差額は、5 億 75 百万円の消費支出超過となりました。

以上により、翌年度繰越消費支出超過額は 7 億 98 百万円となっていますが、２０１２年度も、留学生寮として利用するための学院隣接施設の購入や文学部 1 号館等の整備改修等、設備投資を計画しています。今後も更なる繰越消費支出超過が見込まれるため、引き続き、この解消に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支についてみると、収入の部は、財投機関債の売却や経営充実資金として新規借入を実行したことなどから、増収となりました。一方、支出の部は、ホルブルック記念館の新築工事、ネットワーク・情報教育システムの導入などによる施設関係支出、設備関係支出の増加に加え、借入金の繰上償還も行ったことなどから、次年度繰越支払資金は前年度比 3 億 71 百万円減の 25 億 50 百万円となりました。

2 資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。

大科目レベルの資金収支計算書は、表１のとおりとなりました。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

２０１１年度の本学院の資金収支計算書の概要について補正後の予算と対比しながら以下に記載します。

収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、概ね予算どおりの 42 億 31 百万円となりました。

【手数料収入】

入学検定料などによる手数料収入は、２０１２年度入試受験者数が予測を上回ったため、予算比 8 百万円増の 98 百万円となりました。

【寄付金収入】

本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員などからの寄付による寄付金収入は、予算比 4 百万円増の 79 百万円となりました。なお、資金収支計算書には、現預金の動きを伴わない現物寄付金は含まれていません。

【補助金収入】

国や地方公共団体等からの補助金収入は、私立大学等経常費補助金の算定方法が変更されたことなどにより、予算比 52 百万円減の 4 億 91 百万円となりました。

【資産運用収入】

運用資産は、世界的なソブリンリスクの高まりを受け、保有有価証券の信用リスクを低減するために財投機関債を売却し、定期預金での運用を増やしま

した。その結果、予算比 9 百万円増の 1 億円となりました。

【資産売却収入】

資産売却収入の主な内訳は、運用財産として保有していた妙高高原の土地売却収入や財投機関債の売却収入であり、概ね予算どおりの 5 億 16 百万円となりました。

【事業収入】

事業収入は、ほぼ予算どおりの 61 百万円となりました。主な内訳は、学生寮の寮費収入や公開講座等収入などによるものです。

【雑収入】

雑収入は、主に私学退職金財団からの交付金収入によるものであり、予算比 4 百万円増となりました。

【借入金等収入】

日本私立学校振興・共済事業団より、経営充実資金として、今年度新たに３億円の新規借入を実行しています。

【前受金収入】

２０１２年度の授業料や入学金などで構成される前受金収入は、入学生の増加などにより、予算比 37 百万円増の 8 億 42 百万円となりました。

【その他の収入】

その他の収入は、予算比 5 百万円増の 6 億 65 百万円となりました。今年度は、退職給与引当金の減少に伴う退職給与引当特定資産の一部取崩、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目へ振替などを行いました。

支出の部

【人件費支出】

教職員の給与・賞与や退職金の支払いによる人件費支出は、予算比 9 百万円増の 30 億 66 百万円となりました。

【教育研究経費支出】

教育研究のために支出した経費は、予算比 19 百万円の減となりました。主として、修繕費支出や業務委託費支出の減によるものです。

【管理経費支出】

管理経費は、予算比 10 百万円減の 3 億 7 百万円となりました。主として、広告宣伝費支出の減によるものです。

【借入金等利息支出】

借入金等利息支出の 26 百万円は、阪神・淡路大震災復興などを目的とした日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の支払利息額です。

【借入金等返済支出】

前記、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済に加え、今年度は 5 億 36 百万円の繰上償還を実施しました。

【施設関係支出】

土地、建物や構築物などへの支出である施設関係支出は、予算比 2 百万円減の 3 億 89 百万円となりました。主な内訳は、ホルブルック記念館新築工事に伴う建物支出（3 億 17 百万円）、構築物支出（45 百万円）です。

【設備関係支出】

教育研究用の機器備品や資産計上する図書などへの支出で構成される設備関係支出は、2 億 25 百万円となりました。主な内訳は、ネットワーク・情報教育システム（73 百万円）、ホルブルック記念館関連備品（18 百万円）への支出によるものです。

【資産運用支出】

資産運用支出は、概ね予算どおりの 9 億 97 百万円となりました。主な内訳は、減価償却引当特定資産の対象資産と有価証券科目に含まれる資産の入替や、第３号基本金引当資産への積増し分（1 億 58 百万円）です。

（表1）資金収支計算書

（単位：百万円）

収入の部

科　　目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)－(B)	対前年度比増減要因
学生生徒等納付金収入	4,232	4,231	4,283	△ 52	在校生数の微減により、前年度比52百万円の減となりました。
手数料収入	90	98	97	1	入学検定料などの手数料収入は、大学志願者数が順調に推移したことから、前年度並みを確保しています。
寄付金収入	75	79	72	7	教育振興会を通じての寄付が中心で、前年比7百万円の増となりました。
補助金収入	544	491	562	△ 71	私立大学等経常費補助金の減(56百万円)や施設整備費補助金の減(10百万円)等により、今年度は71百万円の減となりました。
資産運用収入	90	100	115	△ 15	今年度は、世界的なソブリンリスクの高まりから、信用リスクの低減を目的として財投機関債を売却したため、前年度比15百万円の減となりました。
資産売却収入	517	516	0	516	前年度は車両処分に伴う売却収入のみでしたが、今年度は、妙高高原の土地売却収入15百万円や財投機関債を中心とした有価証券売却収入4億99百万円を計上しています。
事業収入	62	61	109	△ 48	人間科学部ESD関連の受託事業収入がなくなり(15百万円減)、学生寮エアコン等改修工事費27百万円を計上したこと等による補助活動収入の減(30百万円)などにより、48百万円の事業収入減となりました。
雑収入	168	172	178	△ 6	ほぼ前年度並みですが、今年度は、私学退職金財団交付金収入の増(11百万円)となった一方、前期計上していた特殊要因(中高部1号館に係る火災保険金12百万円)がなくなったため、全体では6百万円の減となりました。
借入金等収入	300	300	－	300	今年度は、日本私立学校振興・共済事業団から経営充実資金として3億円の新規借入を実行しています。
前受金収入	805	842	805	37	翌年度の授業料や入学金などの前受金収入は、大学入学者数が前年度比約30名増加したことなどにより、前年度比37百万円の増となりました。
その他の収入	660	665	361	304	今年度は、退職給与引当特定資産を取崩(前年度比46百万円減)した一方、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目に振替えた(4億6百万円)ことなどにより、3億4百万円増加しています。
資金収入調整勘定	△ 965	△ 943	△ 980	37	2010年度大学入学者が2009年度に比べ約20名減少したことによる前期末前受金の減(19百万円)と私学退職金財団交付金収入や補助金収入等の期末未収入金の減(18百万円)です。
前年度繰越支払資金	2,921	2,921	2,588	333	
収入の部合計	9,501	9,539	8,194	1,345	

支出の部

科　　目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)－(B)	対前年度比増減要因
人件費支出	3,057	3,066	3,067	△ 1	ほぼ、前年度並みの支出となりました。
教育研究経費支出	1,280	1,260	1,067	193	賃借料(リース料)が減少(49百万円減)した一方、ネットワーク・情報教育システムの更新に伴い、消耗品費等で2億20百万円の経費が発生したため、前年度比1億93百万円の増となっています。
管理経費支出	317	307	284	23	印刷製本費が増加(25百万円増)したことなどによります。
借入金等利息支出	26	26	29	△ 3	借入金返済に伴う借入金元本の減少によるものです。
借入金等返済支出	658	658	122	536	約定返済1億22百万円に加え、繰上償還(5億36百万円)を実施しました。
施設関係支出	392	389	100	289	今年度の主な内訳は、ホルブルック記念館の新築工事に伴う建物支出(3億17百万円)、構築物支出(45百万円)です。
設備関係支出	202	225	92	133	ネットワーク・情報教育システム(73百万円)、ホルブルック記念館関連備品(18百万円)などの教育研究用機器備品支出(1億64百万円)、図書支出(29百万円)等です。
資産運用支出	998	997	435	562	今年度は、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目に振替えた(8億13百万円)ほか、第3号基本金引当資産の積増し(1億58百万円)及び岡田山建築保存引当特定資産の積増し(25百万円)を実施しました。
その他の支出	188	205	196	9	前期末未払金支払支出の減(21百万円)となっている一方、預り金支払支出の増(36百万円)、仮受金精算支出(15百万円)の計上などにより、前年比では微増となっています。
資金支出調整勘定	△ 149	△ 148	△ 124	△ 24	主に、期末未払金の増(23百万円)によるものです。
次年度繰越支払資金	2,529	2,550	2,921	△ 371	以上の要因により、当期末の現金と預金の残高は、前期比3億71百万円の減となりました。
支出の部合計	9,501	9,539	8,194	1,345	

3　消費収支計算書

消費収支計算書は、学校法人における当年度の消費収入（学校法人の負債とならない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除して計算するもの）・消費支出（当該年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するもの）の内容及び均衡状態を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。学校法人は営利法人ではないため、基本金組入れを行った後の消費収入と消費支出が長期的にほぼ同額でつり合うことが望ましいとされています。

大科目レベルの消費収支計算書は、表２のとおりです。(本表では､単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません)

２０１１年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付（3 百万円）が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。なお、資産売却差額については、固定資産や有価証券の売却益を計上しています。

これにより帰属収入の合計は、予算比 21 百万円減の 53 億 35 百万円となりました。

【基本金組入額】

第１号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組み入れる）へ 7 億 66 百万円を組入れました。主な内訳としては、ホルブルック記念館の新築工事による建物支出および構築物支出（計 3 億 62 百万円)、ネットワーク・情報教育システム更新（73 百万円）などであり、建物で 2 億 65 百万円、教育研究用機器備品で 69 百万円、施設関係への借入金返済分 3 億 13 百万円などを組入れています。

第３号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）へ 1 億 58 百万円を組入れました。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比 21 百万円減少し、44 億 11 百万円となりました。

消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出 (1 億 71 百万円) を控除し、退職給与引当金繰入額 (1 億 17 百万円) を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金収支計算書の各経費支出に減価償却額（計 3 億 37 百万円）を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、予算比 14 百万円減の 49 億 86 百万円となりました。

（表2）消費収支計算書

（単位：百万円）

消費収入の部

科　　目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)－(B)	対前年度比増減要因
学生生徒等納付金	4,232	4,231	4,283	△ 52	資金収支計算書と同様です。
手数料	90	98	97	1	
寄付金	76	82	73	9	資金収支計算書計上額に加え、図書や実験器具等の現物寄付金3百万円を計上しています。
補助金	544	491	562	△ 71	資金収支計算書と同様です。
資産運用収入	90	100	115	△ 15	
資産売却差額	93	93	－	93	今年度は、主に、保有債券の売却による有価証券売却差額91百万円を計上しています。
事業収入	62	61	109	△ 48	資金収支計算書と同様です。
雑収入	168	175	178	△ 3	
帰属収入合計	5,357	5,335	5,420	△ 85	以上の要因により、前年度比85百万円の減となりました。
基本金組入額合計	△ 925	△ 924	△ 262	△ 662	今年度は、主に、ホルブルック記念館新築工事（建物3億17百万円、構築物45百万円）、ネットワーク・情報教育システム（教育研究用機器備品73百万円）などの支出等によるものです。
消費収入の部合計	4,432	4,411	5,157	△ 746	消費収入の部合計は、前年度比7億46百万円減となりました。

消費支出の部

科　　目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)－(B)	対前年度比増減要因
人件費	3,005	3,013	3,016	△ 3	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
教育研究経費	1,566	1,549	1,367	182	資金収支計算書に減価償却費（2億89百万円）を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	365	355	337	18	資金収支計算書に減価償却費（47百万円）を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	26	26	29	△ 3	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	38	40	9	31	今年度は、妙高高原の土地売却による16百万円を含む固定資産処分差額39百万円、有価証券処分差額1百万円を計上しています。
徴収不能額	－	0	－	0	貸与奨学金および学納金の徴収不能額を計上しています。
消費支出の部合計	5,001	4,986	4,761	225	消費支出の部合計は、前年度比2億25百万円の増となりました。

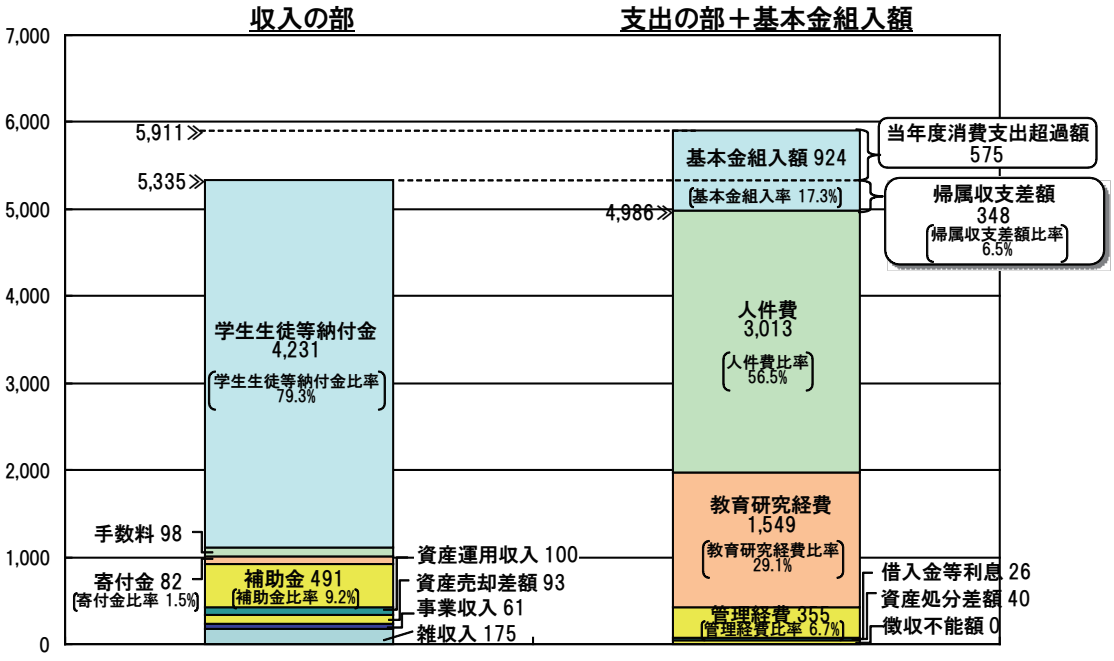
当年度消費収入（△支出）超過額	△ 569	△ 575	396	△ 971	以上の要因により、今年度の消費収支は、前年度比9億71百万円の減となりました。
前年度繰越消費収入（△支出）超過額	△ 222	△ 222	△ 621	399	
基本金取崩額合計	－	－	2	△ 2	前年度は、学校法人部門において除却額等が取得額を上回ったため、第1号基本金を取崩しました。
翌年度繰越消費収入（△支出）超過額	△ 792	△ 798	△ 222	△ 576	以上の要因により、消費収支差額の部は、前年度より支出超過額が5億76百万円増加し、7億98百万円の繰越消費支出超過となりました。

帰属収支差額	355	348	658	△ 310	帰属収入合計から消費支出の部合計を差し引いたもので、学校の施設設備等の取得財源や借入金の返済財源となります。（企業会計上の当期利益にほぼ相当するものです。）

（図1）

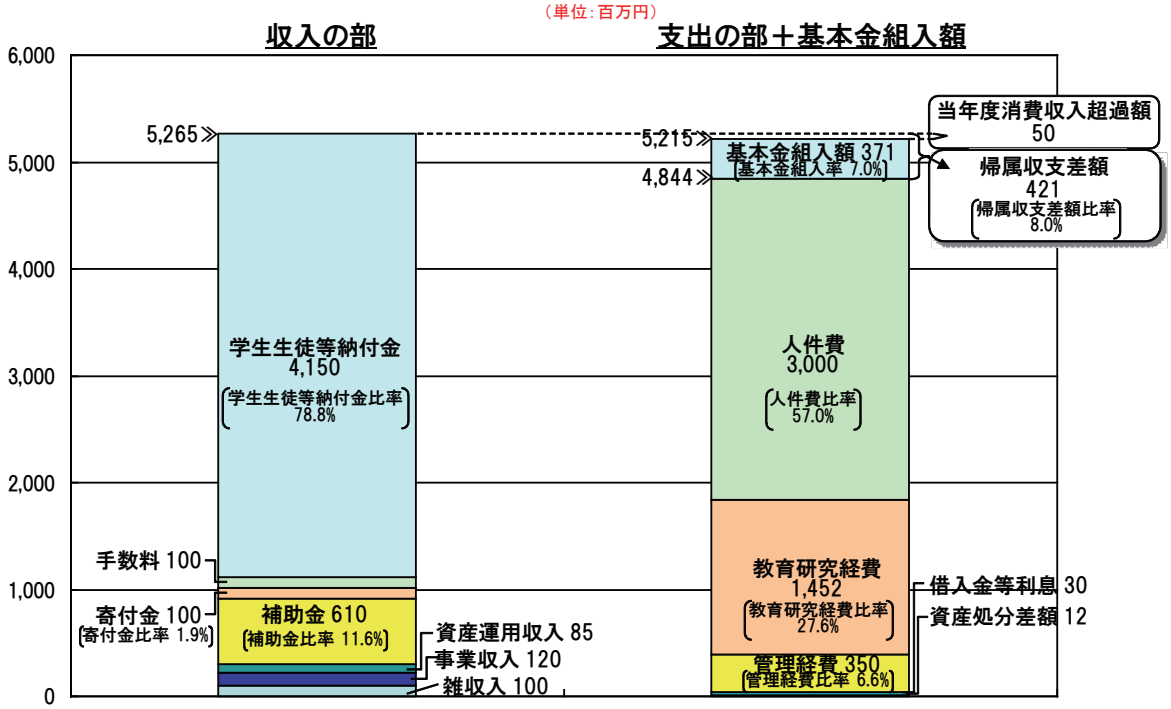
2011(平成23)年度消費収支の概要

（単位：百万円）



2008～2012年度　目標消費収支の概要

（単位：百万円）



（表3）消費収支内訳表(2011（平成23）年度)

（単位：百万円）

消費収入の部 科目＼部門	学校法人	神戸女学院大学	神戸女学院高等学部	神戸女学院中学部
学生生徒等納付金	－	3,599	301	330
手数料	－	92	0	6
寄付金	－	62	10	9
補助金	－	279	99	112
資産運用収入	－	76	11	11
資産売却差額	－	71	11	11
事業収入	－	61	－	－
雑収入	0	134	6	34
帰属収入合計	0	4,378	440	516
基本金組入額合計	－	△ 817	△ 53	△ 53
消費収入の部合計	0	3,561	386	463

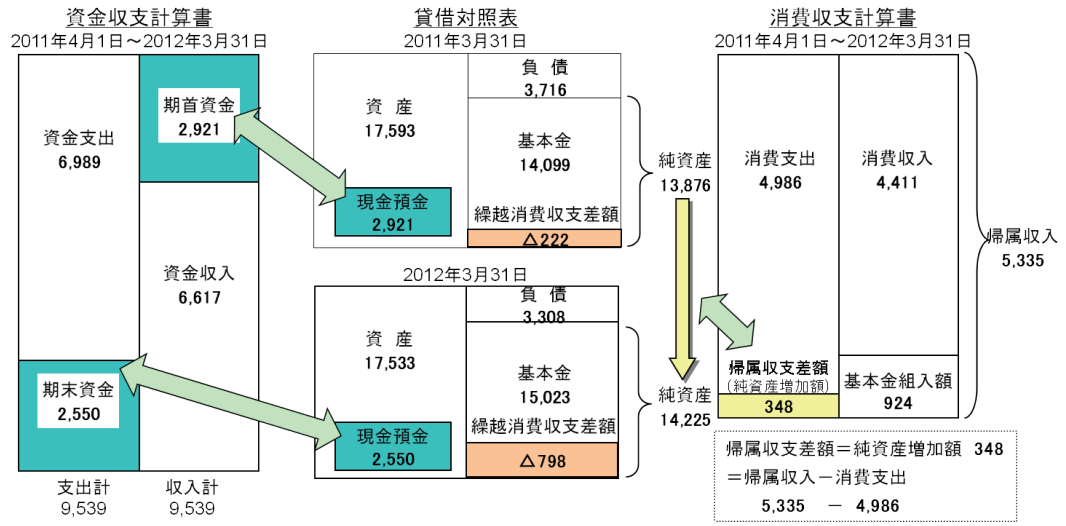
（単位：百万円）

消費支出の部 科目＼部門	学校法人	神戸女学院大学	神戸女学院高等学部	神戸女学院中学部
人件費	47	2,389	255	320
教育研究経費	－	1,313	124	111
管理経費	5	316	15	17
借入金等利息	－	21	2	2
資産処分差額	－	32	3	3
徴収不能額	－	0	－	0
消費支出の部合計	52	4,074	402	456
帰属収支差額	△ 52	303	37	59
消費収支差額	△ 52	△ 513	△ 16	6

注）学校法人部門は、昭和55年11月4日付文管企第250号「資金収支内訳表等の部門別計上及び配分について（通知）」により、限定列挙された範囲の取引を計上しています。（いわゆる法人本部業務に係る取引よりも限定された範囲の取引を計上することとなります。例えば、理事会や役員等の庶務に関することなどが該当します。）

（図2） 2011（平成23）年度決算の概要

（単位：百万円）



①資金収支計算書：学校法人のその年度の教育研究活動やこれに付随する活動に対応するすべての収入と支出の内容を明らかにし、現金預金の１年間（4月1日～3月31日）の動きを表すものです。

②消費収支計算書：学校法人の１年間（4月1日～3月31日）の収支状況を表すものです。帰属収入と消費支出の内容を明らかにし、また消費支出が消費収入により賄われているかを表します。

「基本金」：取得した施設設備（第1号）＋施設設備の将来取得に向けた先行組入れ（第2号）＋各種基金（第3号）＋運転資金（第4号）
⇒帰属収入のうち、学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべき額として決定した金額

③貸借対照表：年度末における学校法人の資産、負債の内容、純資産（資産－負債）の額を明らかにするものです。また、基本金（維持すべき金額）に対する純資産の過不足状態を消費収支差額として表します。

注：単位未満を切捨表示しているため、内訳等を加算したものと合計等は一致しません。

4 貸借対照表

貸借対照表は、貸借対照表日（２０１２年３月３１日）における学校法人の財政状態を明らかにするために作成します。大科目レベルの貸借対照表は、表４のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）２０１１年度の本学院の貸借対照表の概要は以下のとおりです。

（表4）貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部				
科　　目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)－(B)	増減要因等
固定資産	14,833	14,484	349	
有形固定資産	8,622	8,412	210	
土地	1,173	1,205	△ 32	妙高高原の土地売却に伴う減少です。
建物	4,456	4,341	115	主に、ホルブルック記念館新築工事による増加です。
構築物	552	530	22	主に、ホルブルック記念館新築工事による増加です。
教育研究用機器備品	498	418	80	主に、ネットワーク・情報教育システムの取得による増加です。
その他の機器備品	27	21	6	
図書	1,913	1,884	29	図書の購入等による増加です。
車両	0	0	0	
建設仮勘定	0	9	△ 9	ホルブルック記念館が竣工したため、建物等に振替を行いました。
その他の固定資産	6,211	6,072	139	
教育研究用ソフトウェア	20	19	1	
その他のソフトウェア	15	―	15	新経理システム、新人事・給与システム導入による増加です。
電話加入権	3	3	0	
有価証券	426	428	△ 2	内容は、地方債、政府関係機関債です。
差入保証金	3	3	0	
出資金	27	27	0	
貸与奨学金	295	302	△ 7	
退職給与引当特定資産	1,506	1,560	△ 54	将来の退職金の支払を想定した特定資産です。引当金の減少により取崩しました。一部の事業債や銀行預金等で運用しています。
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0	減価償却対象資産の将来の更新を目的とした特定資産です。政府関係機関債や一部の事業債、銀行預金等で運用しています。
岡田山建築保存引当特定資産	51	25	26	岡田山キャンパスの創建建築保存のための費用に充てることを目的とした特定資産です。内容は銀行預金です。
第3号基本金引当資産	722	564	158	第3号基本金に係る資産です。政府関係機関債や銀行預金で運用しています。
その他	0	0	0	自動車リサイクル費用に係る預託金です。
流動資産	2,699	3,108	△ 409	
現金預金	2,532	2,904	△ 372	現預金は、前年度比3億72百万円減の25億32百万円となりました。
修学旅行費預り資産	18	17	1	現預金のうち、中高部の修学旅行等費用の預り金に対応する額を区分して表示しています。
未収入金	137	155	△ 18	未収入金は、主に補助金や私学退職金財団からの交付金収入です。
短期貸付金	―	0	△ 0	
前払金	12	30	△ 18	前年度は翌年度半期分の教職員通勤手当（13百万円）を計上していましたが、支給時期の変更により今年度は計上していません。
資産の部合計	17,533	17,593	△ 60	以上により、資産の部合計は、前年度比60百万円の減となりました。

（単位：百万円）

負債の部

科　　目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)－(B)	増減要因等
固定負債	2,138	2,544	△ 406	
長期借入金	614	972	△ 358	日本私立学校振興・共済事業団からの借入金であり、新規借入3億円、約定返済1億22百万円及び繰上償還5億36百万円によります。
退職給与引当金	1,506	1,560	△ 54	主に、勤続年数の長い教職員の退職によるものです。
長期未払金	18	11	7	延払金の増加によるものです。
流動負債	1,169	1,171	△ 2	
短期借入金	122	122	0	借入金のうちの1年以内に返済予定のものです。
未払金	110	98	12	
前受金	842	805	37	主な内訳は翌年度の授業料や入学金などの前受金であり、大学入学者数が前年度比約30名増加したことなどにより増加しています。
預り金	75	112	△ 37	預り金の受入と支払の時期の不一致などの要因により、当年度は37百万円の減となっています。
修学旅行費預り金	18	17	1	預り金のうち、中高部の修学旅行等費用分を区分して表示しています。
仮受金	－	15	△ 15	前年度は本学院への帰属額が未確定の寄付金を計上していました。
負債の部合計	3,308	3,716	△ 408	

基本金の部

科　　目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)－(B)	増減要因等
第1号基本金	13,928	13,161	767	本年度の増加額は、学校法人が保有する固定資産のうち、新たに取得した基本財産を基本金として組入れた金額の合計です。今年度の増加は、主に建物、教育研究用機器備品等によるものです。
第3号基本金	722	564	158	奨学基金などに組入れた金額の合計です。
第4号基本金	373	373	0	運営に必要な運転資金として恒常的に保持すべきとされる金額であり、教職員人件費支出、教育研究経費・管理経費支出及び借入金利息支出の1ヶ月分です。増減はありません。
基本金の部合計	15,023	14,099	924	

消費収支差額の部

科　　目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)－(B)	増減要因等
翌年度繰越消費収入（△支出）超過額	△ 798	△ 222	△ 576	消費収支差額の部は、前年度より5億76百万円減少し、7億98百万円の繰越消費支出超過となりました。
消費収支差額の部合計	△ 798	△ 222	△ 576	

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計

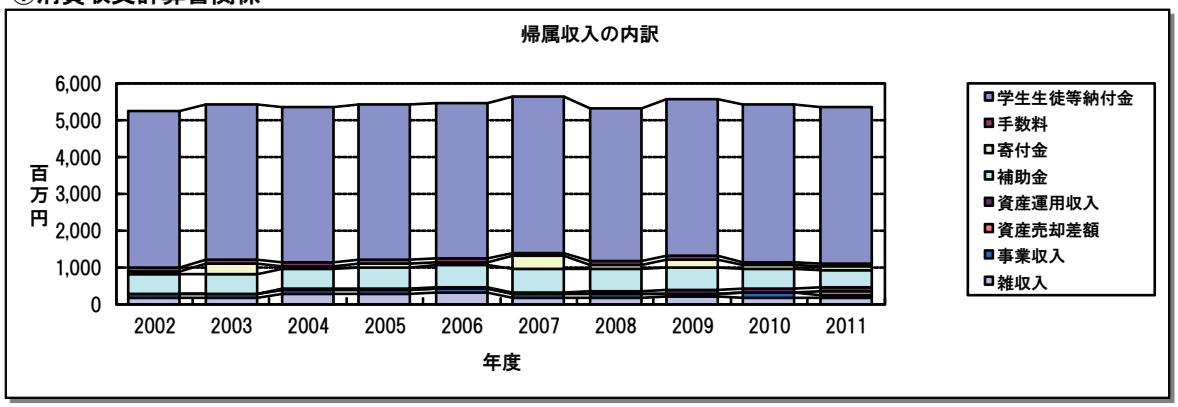
科　　目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)－(B)	増減要因等
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,533	17,593	△ 60	

5 財務データの推移

過去１０年間の消費収支計算書、貸借対照表の概要及び財務諸比率の推移は表５のとおりです。（本表では、消費収支計算書、貸借対照表は、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。また、財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています）

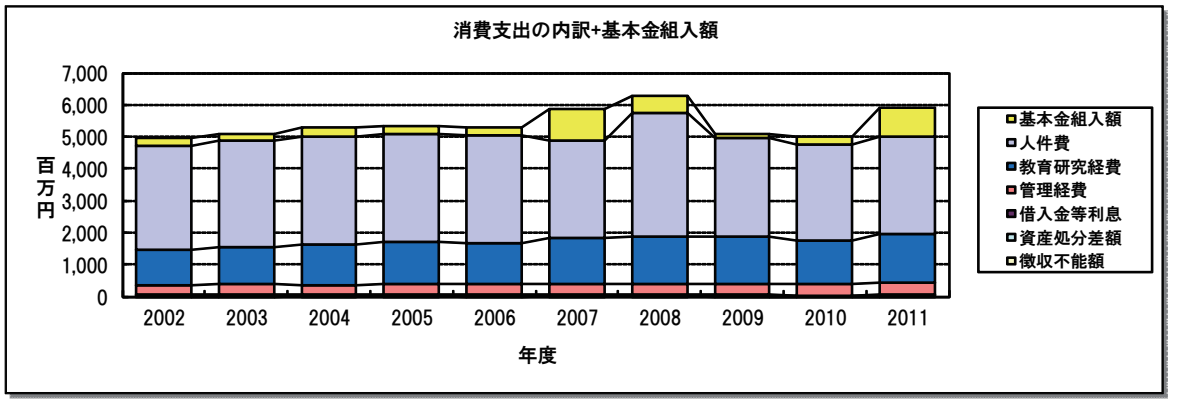
（表5）財務データ推移

①消費収支計算書関係



（年度、単位：百万円）

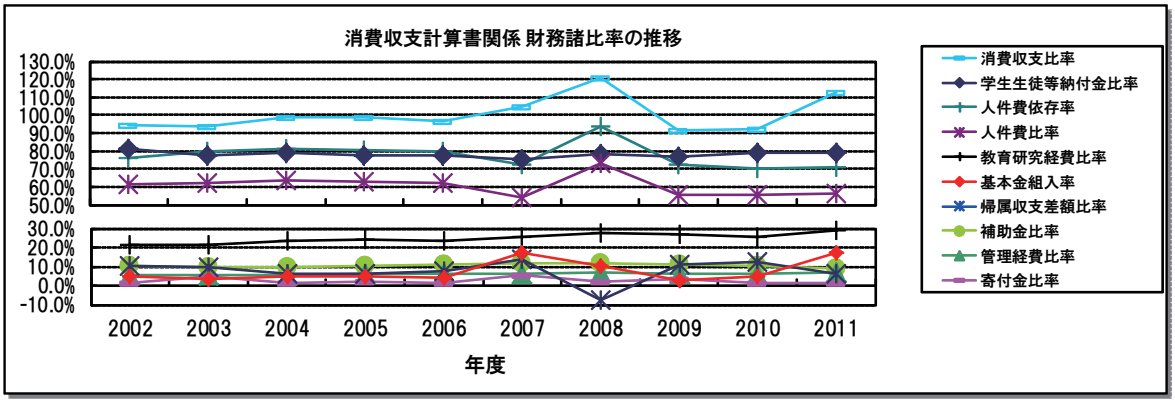
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
学生生徒等納付金	4,238	4,210	4,220	4,189	4,229	4,245	4,154	4,262	4,283	4,231
手数料	111	119	113	104	106	105	99	96	97	98
寄付金	70	270	80	112	73	329	112	210	73	82
補助金	539	530	532	571	605	647	613	619	562	491
資産運用収入	18	23	26	28	37	53	76	103	115	100
資産売却差額	―	―	0	0	0	2	0	0	―	93
事業収入	94	101	101	105	100	102	95	87	109	61
雑収入	160	159	270	284	306	153	170	179	178	175
帰属収入合計	5,234	5,414	5,347	5,397	5,459	5,640	5,322	5,560	5,420	5,335
基本金組入額	△ 250	△ 195	△ 271	△ 274	△ 233	△ 983	△ 560	△ 161	△ 262	△ 924
消費収入の部合計	4,983	5,219	5,075	5,123	5,226	4,656	4,761	5,398	5,157	4,411



（年度、単位：百万円）

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
人件費	3,230	3,353	3,412	3,381	3,374	3,060	3,876	3,084	3,016	3,013
教育研究経費	1,112	1,162	1,243	1,315	1,274	1,428	1,458	1,480	1,367	1,549
管理経費	288	307	309	321	351	331	360	335	337	355
借入金等利息	54	51	48	45	42	39	35	32	29	26
資産処分差額	18	13	7	13	17	12	6	11	9	40
徴収不能額	0	0	1	2	―	3	1	―	―	0
消費支出の部合計	4,704	4,888	5,022	5,078	5,059	4,876	5,738	4,945	4,761	4,986

帰属収支差額	529	526	324	319	399	763	△ 416	614	658	348
消費収支差額	278	331	52	44	166	△ 220	△ 976	453	396	△ 575



（年度、単位：%）

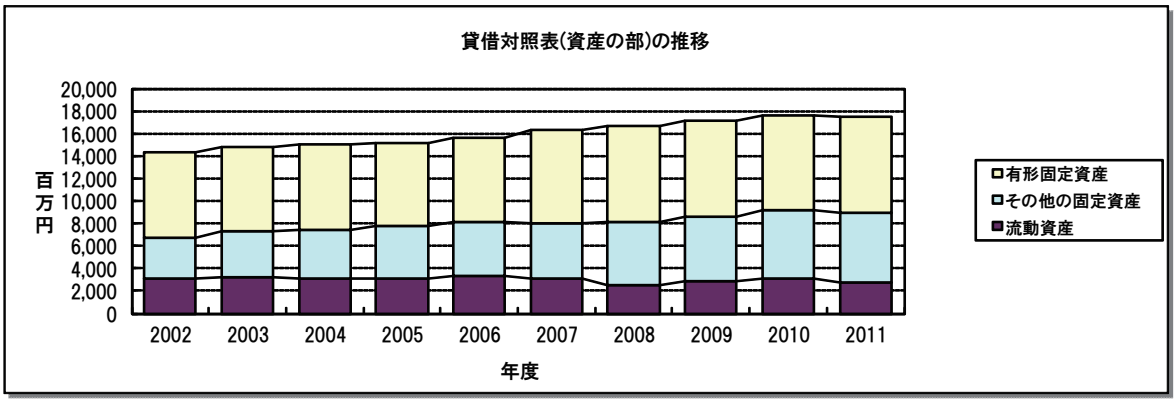
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
人件費比率	61.7%	61.9%	63.8%	62.6%	61.8%	54.3%	72.8%	55.5%	55.7%	56.5%
人件費依存率	76.2%	79.6%	80.8%	80.7%	79.8%	72.1%	93.3%	72.4%	70.4%	71.2%
教育研究経費比率	21.2%	21.5%	23.3%	24.4%	23.3%	25.3%	27.4%	26.6%	25.2%	29.1%
管理経費比率	5.5%	5.7%	5.8%	6.0%	6.4%	5.9%	6.8%	6.0%	6.2%	6.7%
学生生徒等納付金比率	81.0%	77.8%	78.9%	77.6%	77.5%	75.3%	78.1%	76.7%	79.0%	79.3%
寄付金比率	1.4%	5.0%	1.5%	2.1%	1.4%	5.8%	2.1%	3.8%	1.3%	1.5%
補助金比率	10.3%	9.8%	10.0%	10.6%	11.1%	11.5%	11.5%	11.2%	10.4%	9.2%
帰属収支差額比率	10.1%	9.7%	6.1%	5.9%	7.3%	13.5%	△ 7.8%	11.1%	12.2%	6.5%
消費収支比率	94.4%	93.7%	99.0%	99.1%	96.8%	104.7%	120.5%	91.6%	92.3%	113.1%
基本金組入率	4.8%	3.6%	5.1%	5.1%	4.3%	17.4%	10.5%	2.9%	4.8%	17.3%

【参考】

比率名	計算式	考え方	本学院 2011年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
人件費比率	人件費÷帰属収入×100	低い値が良い	56.5%	49.7%	52.9%	52.4%
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金×100	低い値が良い	71.2%	93.3%	72.0%	95.3%
教育研究経費比率	教育研究経費÷帰属収入×100	高い値が良い	29.1%	35.8%	30.9%	34.4%
管理経費比率	管理経費÷帰属収入×100	低い値が良い	6.7%	7.2%	8.8%	8.2%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷帰属収入×100	どちらとも言えない	79.3%	53.3%	73.4%	54.9%
寄付金比率	寄付金÷帰属収入×100	高い値が良い	1.5%	2.3%	2.6%	1.4%
補助金比率	補助金÷帰属収入×100	高い値が良い	9.2%	10.2%	12.4%	12.1%
帰属収支差額比率	(帰属収入－消費支出)÷帰属収入×100	高い値が良い	6.5%	4.6%	4.4%	2.8%
消費収支比率	消費支出÷消費収入×100	低い値が良い	113.1%	107.5%	110.5%	109.3%
基本金組入率	基本金組入額÷帰属収入×100	高い値が良い	17.3%	11.3%	13.4%	11.1%

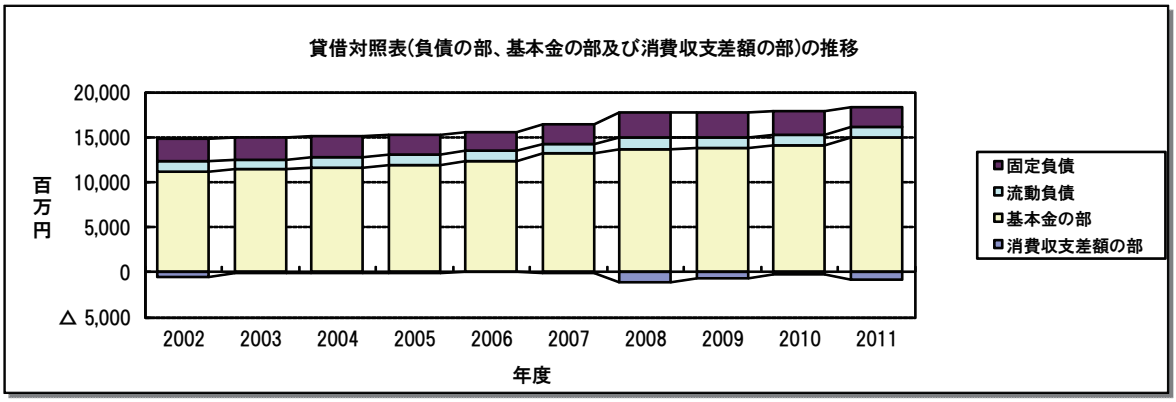
資料：「平成23年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)
注 1：全国平均(532大学法人)、全国平均(医歯系除く)(492大学法人)、同規模平均(107大学法人)は、
2010(平成22)年度決算の平均値
注 2：同規模平均は、学生生徒数3～5千人規模の大学法人の平均値

②貸借対照表関係



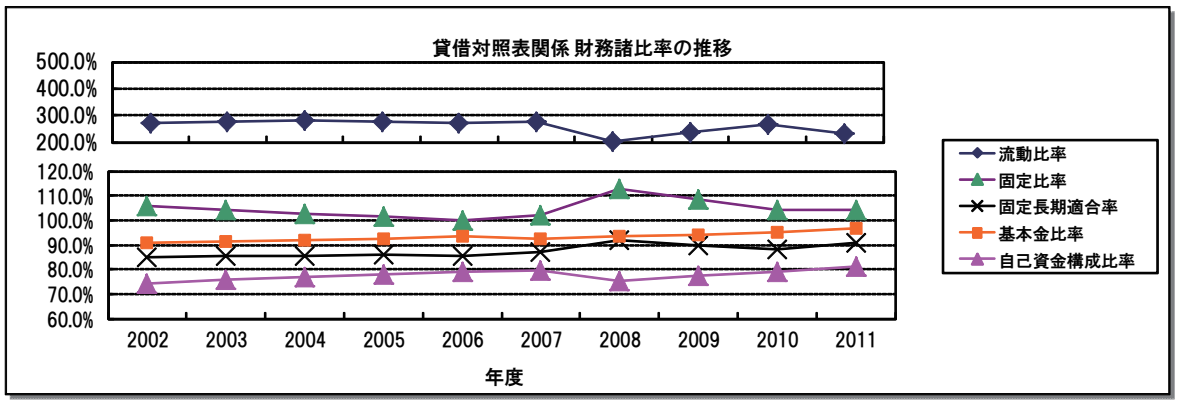
（年度、単位：百万円）

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
有形固定資産	7,660	7,576	7,525	7,481	7,393	8,359	8,547	8,587	8,412	8,622
その他の固定資産	3,627	4,088	4,324	4,584	4,850	4,895	5,681	5,727	6,072	6,211
流動資産	3,098	3,176	3,146	3,139	3,315	3,067	2,458	2,814	3,108	2,699



（年度、単位：百万円）

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
固定負債	2,566	2,476	2,344	2,215	2,090	2,193	2,883	2,722	2,544	2,138
流動負債	1,133	1,153	1,115	1,133	1,213	1,110	1,199	1,189	1,171	1,169
基本金の部	11,183	11,378	11,649	11,923	12,156	13,135	13,696	13,839	14,099	15,023
消費収支差額の部	△ 497	△ 166	△ 113	△ 68	98	△ 116	△ 1,093	△ 621	△ 222	△ 798
【参考】自己資金 （基本金＋消費収支差額）	10,685	11,211	11,536	11,855	12,255	13,018	12,602	13,217	13,876	14,225



（年度、単位：%）

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
流動比率	273.4%	275.3%	282.1%	276.8%	273.2%	276.2%	204.9%	236.6%	265.3%	230.8%
固定比率	105.6%	104.0%	102.7%	101.8%	99.9%	101.8%	112.9%	108.3%	104.4%	104.3%
固定長期適合率	85.2%	85.2%	85.4%	85.8%	85.3%	87.1%	91.9%	89.8%	88.2%	90.6%
基本金比率	90.8%	91.2%	91.8%	92.6%	93.3%	92.6%	93.6%	94.2%	94.9%	96.9%
自己資金構成比率	74.3%	75.5%	76.9%	78.0%	78.8%	79.8%	75.5%	77.2%	78.9%	81.1%

【参考】

比率名	計算式	考え方	本学院 2011年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
流動比率	流動資産÷流動負債×100	高い値が良い	230.8%	233.2%	236.6%	301.6%
固定比率	固定資産÷自己資金×100	低い値が良い	104.3%	101.2%	99.8%	97.1%
固定長期適合率	固定資産÷(自己資金＋固定負債)×100	低い値が良い	90.6%	91.7%	92.1%	89.0%
基本金比率	基本金÷基本金要組入額×100	高い値が良い	96.9%	96.7%	97.0%	97.0%
自己資金構成比率	自己資金÷総資金×100	高い値が良い	81.1%	85.3%	87.2%	87.0%

資料：「平成22年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)
注 1：全国平均(532大学法人)、全国平均(医歯系除く)(492大学法人)、同規模平均(107大学法人)は、2010(平成22)年度決算の平均値
注 2：同規模平均は、学生生徒数3～5千人規模の大学法人の平均値
注 3：自己資金＝基本金＋消費収支差額、総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額

Ⅳ． 事業計画

1 今後の運営方針及び2012年度予算編成について

神戸女学院はキリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹とし、豊かな自然とヴォーリズ設計による校舎群が美しく調和する岡田山のキャンパスにおいてリベラルアーツ＆サイエンス教育を実践し女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。この全人教育の豊かな質と環境をさらに向上・発展させるため引き続き有効な事業計画を実施し、併せてめざす教育事業の永続性を担保するべく財務基盤の強化を図ってまいります。

２０１１年度は、新教育実験棟メアリー･アンナ･ホルブルック記念館の建築、また情報処理関連教室の設備、認証システムおよびネットワーク関連設備の更新・維持等の大型事業に取り組み、教育環境の整備、向上に寄与することとなりました。しかし、収入面においては、入学定員管理の厳格化のもと学納金収入は逓減期に入り、また手数料、寄付金、補助金の伸長や資産運用収入の改善にはますます厳しい社会経済状況となっています。

２０１２年度は、引き続きハード、ソフト両面から学生・生徒のための教育環境整備を主眼に、必要な事業について予算措置を行います。施設・設備面では、長期整備計画にもとづくヴォーリズ校舎や文学部１号館をはじめとする教室の整備改修、防火・防災対策の強化、バリアフリーの推進（エレベータ増設）等を順次実施してまいります。また、語学教育をはじめ今後の教育カリキュラム改革を視野に入れた教務システムの構築や、留学生受け入れなど国際交流の一層の活性化を目的とした学院隣接施設の購入に特別予算の措置をしています。

これらの結果、２０１２年度予算編成においては繰越消費支出超過額が拡大する見通しで、２００８年度に策定した「主要財務比率の目標値」に比して一部の指標がマイナス方向に乖離することとなります。予算上の主な財務比率は、人件費比率 57.1%（目標値 57.0%）、教育研究経費比率 28.3%（同 27.6%）、帰属収支差額比率 7.5%（同 8.0%）となります。

２０１３年度には中高部２号館の建替えを予定しており、加えて消費税の増税が見込まれるなど厳しい財政状況が続きます。今後とも予算執行の合理性、妥当性の吟味を厳格化するとともに、無駄の排除、選択と集中を推進し、長期的な収支均衡へ向けた努力を引き続き進めてまいります。

2 2012度事業計画

教育・研究

a) 人間科学部「地域から ESD を推進する女性環境リーダー」

平成 21 年度科学技術総合推進費補助金選定事業第４年次計画を実施します。
（補助金申請額 18 百万円）

b) 音楽学部「音大連携による教育イノベーション 音楽コミュニケーション・リーダー養成」

補助事業終了後も、東京音楽大学、昭和音楽大学と連携した共通講座の開講、地方公共ホールとの連携プロジェクト、またザルツブルグ音楽院のウェブ･レッスン等を実施します。

c) 全学部「早期離職に歯止めをかけるキャリア支援」

補助事業終了後も、OG やキャリアカウンセラーを活用し、学内合同企業説明会や懇談会等の機会を設けて学生への情報提供を充実させることで、よりきめ細やかな就職支援体制を整備します。

d) 全学部「就職率向上のための就職支援特別講座」

３年生を対象に、３つの就職支援講座（業界研究講座、企業研究講座、職種研究講座）を専門業者に委託し、就職支援体制の強化を図ります。

その他の事業

a）音楽学部「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」の実施

音楽学科舞踊専攻学生の年度学習の成果発表としての「舞踊年度公演」、４年間の習得の総まとめとしての「舞踊卒業公演」を実施します。

b）音楽学部「定期演奏会」の実施

卒業までの４年間で『メサイア』と『第九』を体験することで、卒業後社会で活躍するための技術の習得を目指し、定期演奏会を実施します。

c）大学「翻訳コンクール」の実施

高校生を対象とした「翻訳コンクール」を実施します。

施設・設備

a）学院隣接施設の購入および改修工事

留学生寮として利用するため、学院隣接施設の購入および改修を行います。

b）文学部１号館改修工事

文学部１号館において、LA Ⅰ-21 を中心に改修工事を行い、本学院で最大の教室として学生の快適な授業環境の確保を図るとともに、学会や催し物など学外者の利用も可能な体制を整備します。さらに、老朽化への対応として、椅子や机等の設備の入替も行います。

c）共有施設・用地の整備

学内の学生・生徒の安全を確保するため、西門道路の拡幅工事を実施します。また、ホルブルック記念館新築工事に伴い倉庫が解体されたため、２階建ての倉庫兼作業員詰所を新築します。

d）建物等の改修

中高部では、バリアフリー推進事業として、タルカット記念館にエレベータを設置します。また、中高部１号館サッシ・壁面改修工事なども行います。

e）空調設備の改修工事

既設の空調設備の劣化や機器効率の低下に対応するため、理学館空調設備およびタルカット記念館の冷暖房機取替工事、ならびにデフォレスト記念館およびジュリア・ダッドレー記念館のエアコン取替工事を行います。

f）防災設備の充実

既設校舎の防火機能を充実するため、理学館や文学部１・２号館において、火災報知設備・放送設備の設置工事や不燃天井材の取替工事を行います。

g）システム関係

今年度は、EUC クラス分けシステムのリプレースや教務システムのサーバ更新、図書館システムによる資料のデータベース化などを実施します。

3 2012年度予算書

２０１２年度の資金収支予算書は表６、消費収支予算書は表７のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。）

（表6）資金収支予算書

（単位：百万円）

収入の部

科　目	2011年度予算	2011年度決算(A)	2012年度予算(B)	(B)－(A)	2012年度当初予算の内容
学生生徒等納付金収入	4,232	4,231	4,211	△ 20	2012年度入試による入学者数を中高部140人、大学630名と見込み、前年度比20百万円減の予算としています。
手数料収入	90	98	92	△ 6	厳しい募集環境は続きますが、新たな募集の仕組みの導入による受験者数の増加を見込み、前年度比微増の予算としています。
寄付金収入	75	79	72	△ 7	寄付金収入は、主として教育振興会を通じての一般寄付の見込額を計上しています。
補助金収入	544	491	524	33	私立大学経常費補助金は算定方法変更に伴う影響の見極めが困難なため、2010年度をベースに、施設整備費補助金の減、GP等事業の終了に伴う減を見込みました。
資産運用収入	90	100	67	△ 33	2011年度に財投機関債を売却したことによる債券の減少、および金利水準の低迷を見込み、前年度比33百万円減の予算としています。
資産売却収入	517	516	－	△ 516	2012年度は、大きな資産の売却は予定していません。
事業収入	62	61	94	33	2012年度は学生寮の冷暖房機の更新工事等の特殊要因が剥落するため、補助活動収入は33百万円の増を見込んでいます。
雑収入	168	172	134	△ 38	2012年度末の定年退職者のみを前提に予算計上しているため、私学退職金財団の交付金収入は前年度比38百万円減の予算となりました。
借入金等収入	300	300	－	△ 300	2012年度は、新規借入を予定していません。
前受金収入	805	842	803	△ 39	2012年度入学者数を中学部140名、大学630名として予算化しています。
その他の収入	660	665	205	△ 460	2011年度は、退職給与引当特定資産の取崩及び減価償却引当特定資産の振替を行いましたが、2012年度は取崩等は予定していません。
資金収入調整勘定	△ 965	△ 943	△ 912	31	
前年度繰越支払資金	2,921	2,921	2,529	△ 392	
収入の部合計	9,501	9,539	7,819	△ 1,720	

支出の部

科　目	2011年度予算	2011年度決算(A)	2012年度予算(B)	(B)－(A)	2012年度当初予算の内容
人件費支出	3,057	3,066	2,992	△ 74	2012年度は、定年退職者のみを前提に退職金支出を計上していることなどにより、減少の予算となっています。
教育研究経費支出	1,280	1,260	1,160	△ 100	文学部1号館の改修工事や教務システム等のシステム更新などを予定しています。
管理経費支出	317	307	317	10	社交館の耐震工事に伴う修繕費の増加等によるものです。
借入金等利息支出	26	26	11	△ 15	2011年度に利率3%の借入金の繰上返済と利率0.6%の新規借入を行ったため、支出減を見込んでいます。
借入金等返済支出	658	658	112	△ 546	2011年度は借入金の繰上償還を実施しましたが、2012年度は約定返済のみ実施する予定です。
施設関係支出	392	389	355	△ 34	学院隣接施設の購入および改修工事1億65百万円に加え、倉庫の新築、文学部1号館や理学館空調設備の改修、タルカット記念館エレベータ設置などを予算化しています。
設備関係支出	202	225	156	△ 69	文学部1号館の改修関連費用24百万円のほか、クラス分けシステムのリプレース等教務課関連設備30百万円などを予算化しています。
資産運用支出	998	997	167	△ 830	2011年度より奨学金の充実を目的として第3号基本金に毎年1億円積み増す計画としています。2012年度は、第3号基本金引当資産の積増しのみを予定しています。
その他の支出	188	205	168	△ 37	
資金支出調整勘定	△ 149	△ 148	△ 130	18	
次年度繰越支払資金	2,529	2,550	2,510	△ 40	
支出の部合計	9,501	9,539	7,819	△ 1,720	

(表7)消費収支予算書

(単位:百万円)

消費収入の部

科　目	2011年度予算	2011年度決算(A)	2012年度予算(B)	(B)−(A)	2012年度当初予算の内容
学生生徒等納付金	4,232	4,231	4,211	△ 20	寄付金に現物寄付が含まれ、資産売却差額のみが計上される点を除き、資金収支計算書と同様です。
手数料	90	98	92	△ 6	
寄付金	76	82	73	△ 9	
補助金	544	491	524	33	
資産運用収入	90	100	67	△ 33	
資産売却差額	93	93	−	△ 93	
事業収入	62	61	94	33	
雑収入	168	175	134	△ 41	
帰属収入合計	5,357	5,335	5,195	△ 140	以上の要因により、2011年度比1億40百万円の減を見込んでいます。
基本金組入額合計	△ 925	△ 924	△ 659	265	主として学院隣接施設の購入などに伴う基本金組入を予定しています。
消費収入の部合計	4,432	4,411	4,536	125	消費収入の部は前年度比1億25百万円増の45億36百万円を見込んでいます。

消費支出の部

科　目	2011年度予算	2011年度決算(A)	2012年度予算(B)	(B)−(A)	2012年度当初予算の内容
人件費	3,005	3,013	2,968	△ 45	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
教育研究経費	1,566	1,549	1,472	△ 77	資金収支計算書に減価償却費(3億12百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	365	355	344	△ 11	資金収支計算書に減価償却費(27百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	26	26	11	△ 15	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	38	40	12	△ 28	
徴収不能額	−	0	−	△ 0	
消費支出の部合計	5,001	4,986	4,807	△ 179	以上の要因により、前年度比1億79百万円減の48億7百万円を見込んでいます。

当年度消費収入(△支出)超過額	△ 569	△ 575	△ 270	305	これにより、2012年度の消費支出超過額は、2億70百万円の支出超過を予定しています。
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 222	△ 222	△ 792	△ 570	
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 792	△ 798	△ 1,062	△ 264	

帰属収支差額	355	348	388	40	

学校法人 神戸女学院

〒662-8505　西宮市岡田山 4-1　電話 0798-51-8508（経理課）
http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html